

1 年次

基礎分野

1. 考え方

「基礎分野」は、専門基礎分野、専門分野を支える科目群である。ここでは、「科学的思考の基盤」「人間と生活・社会の理解」を学ぶ。人間愛および生命の尊厳を基盤とした人間と生活の理解に加え、科学的・論理的思考とコミュニケーション能力を育成し、国際化や情報社会への対応能力（ICT活用能力）を高め、成長発達に伴う変化や教育、世界各国の文化・社会・価値観を学び、人間と社会の関わりを理解する。これらの学びをとおして、看護を学ぶための資質を培い、感じる力、人とかかわる力、学び続ける力を備え、豊かな感性を持ち合わせた主体性のある人間形成に寄与することをねらいとする。

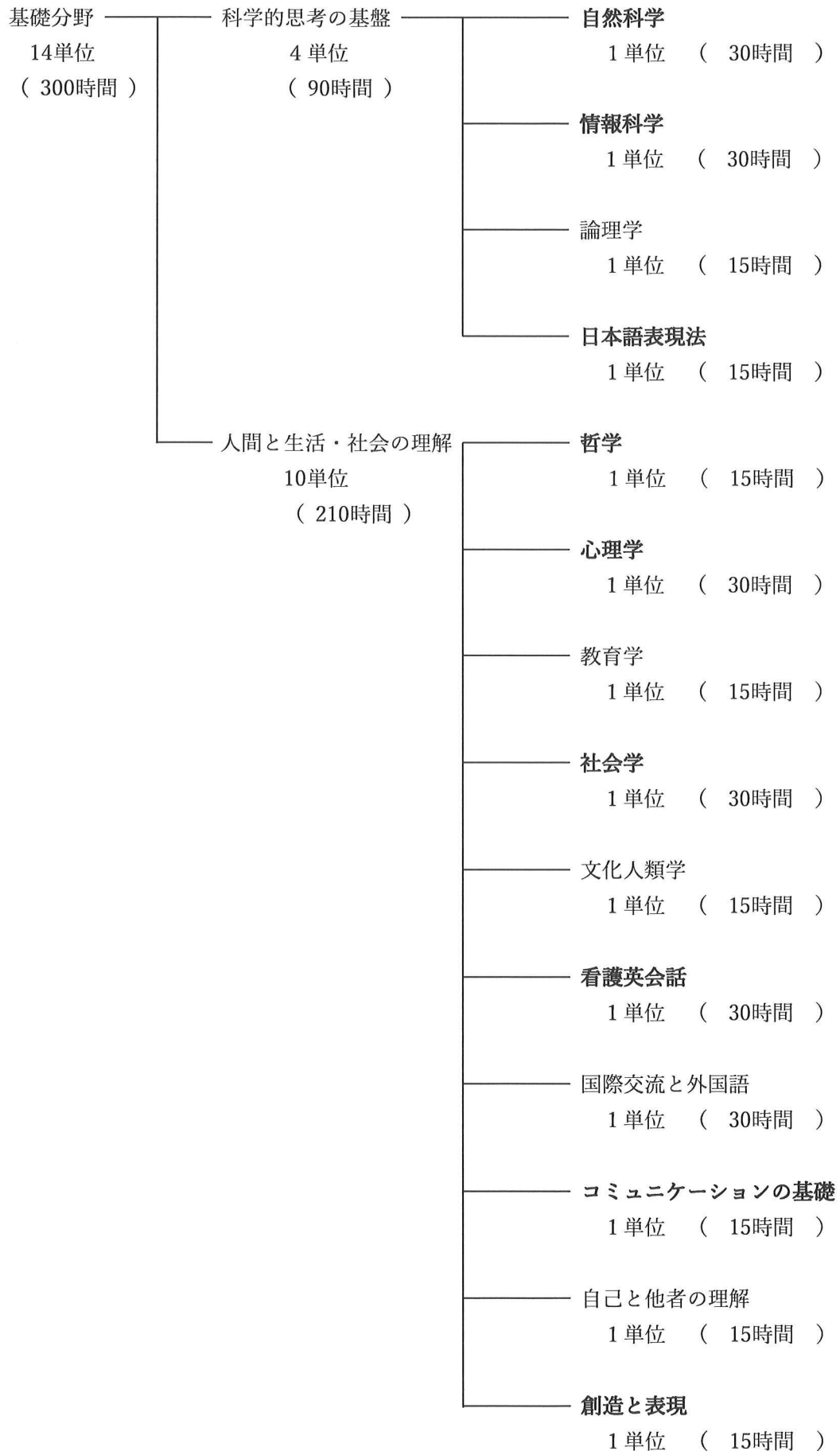
2. 目的

- 1) 科学的・論理的思考とコミュニケーション能力の基礎を養い、自ら学習する能力を育てる。
- 2) 人間と生活・社会を理解し、豊かな感性とともに自らが人間として成長する基礎を養う。

3. 目標

- 1) 看護に対応できる科学的思考の基礎を理解する。
- 2) 情報通信技術（ICT）を活用するための基礎を身につける。
- 3) わかりやすい表現、論理的思考を用いて、他者と適切に意思疎通するための基礎を身につける。
- 4) 人間理解のための哲学的思考、生命の尊厳、人間尊重の考え方を理解する。
- 5) 教育に関する基礎知識を学び、教育的関わりや学び続ける姿勢を身につける。
- 6) 国際化に対応し、さまざまな文化、社会、価値観の多様性を理解する。
- 7) 現代社会と家族を通して、社会的存在としての人間を理解する。
- 8) 人間関係の基礎的理論を学び、自己理解、他者理解を深めて他者と良好な関係を築くための基礎を身につける。

4. 基礎分野の構成



自然科学		開講時期	1年次前期	単位数	1	時間数	30
科目責任者	市川 淳士						
科目設定理由	看護活動には自然科学の理解が欠かせない。日常現象の物理学的視点、分子レベルで生命現象、生命体の種類と細胞、生命の連続性や遺伝について、高校までの学習をもとに理解し、看護の学習につなげることをねらいとする。						
科目目標	看護に必要な物理学・化学・生物学の基礎を学ぶ。						
回数	担当講師	講義内容					
1	中村 知夏	【物理学】					
2		物理を看護に活かすために、物理学の基礎を学ぶ。					
3		1. 単位や数の大きさの話					
4		2. 物体の運動（ベクトル、運動方程式、力）					
5		3. てこの原理 4. 重心と安定・不安定 5. 圧力					
6	市川 淳士	【化学】					
7		物質の性質と反応を理解し、分子レベルで生命現象を考えるために、化学の基礎を学ぶ。					
8		1. 生命と化学の接点					
9		2. 生体分子を学ぶ基礎-化学結合					
10		3. 生体分子を学ぶ基礎-分子の考え方 4. 生体分子を学ぶ基礎-濃度と浸透圧 5. 生体分子を作る要素としての有機化合物					
11	高木 智子	【生物学】					
12		生命体の種類・細胞を学び、生命の連続性と遺伝について理解する。					
13		1. 生物（分類）・細胞					
14		2. 細胞小器官					
15		3. 生体を構成する分子 4. 遺伝 5. 発生					
使用テキスト							
平田雅子:完全版ベットのサイドを科学する 第4版 看護に生かす物理学 学研メディカル李潤社 齋藤勝裕:新らしくわかる化学 東京化学同人 大石正道:「生物」のことが一冊でまるごとわかる ベレ出版							
評価方法							
参加度、レポート提出及び内容、試験で評価する。							
担当講師の実務経験							
大学教授、大学研究員、大学講師 等							

情報科学		開講時期	1年次 通年	単位数	1	時間数	30
科目責任者		坪井 博之					
科目設定理由		医療の分野では情報通信技術（ICT）が急速に発展している。これは、①国民が安心できる医療の提供、②医療費の削減、③医療従事者の効率化を目的とした国がめざす医療の姿である。こうした環境で医療に従事する者には、情報リテラシーの知識を活用して、効果的に活動するための情報の整理方法やサービス提供のために新たに情報を作り出すための知識とスキルが必要になる。こうした情報通信技術（ICT）を活用するための基礎的能力を養うことをねらいとする。					
科目目標		<p>実際のデータを使用し演習を中心に授業を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報通信技術（ICT）を活用した学習方法を身につける。 2. 情報の意義について理解し、看護活動に活用できる基礎的能力を養う。 3. 情報処理の基本的考え方、方法を学び、情報リテラシーを理解する。 					
回数	担当講師	講義内容					
1	坪井 博之	1. 講義					
2		・情報科学					
3		・情報リテラシーとは					
4		・個人情報保護とプライバシー					
5		・情報化について					
6		・設計的・分析的な考え方					
7		・質的データと量的データの種類の取り扱い					
8		・文献検索					
9		・AIの活用について					
10		・統計学について					
11		2. Word・Excelを使用して質的・量的データの処理の知識・技術の学習					
12		・データの入力方法・範囲の設定・表計算・内部・外部関数・グラフ化・印刷					
13		（表のみ、グラフのみ、表とグラフ）等					
14		・時系列、断面データを使ってExcelでデータの集計とグラフ化を行い、出来上がった集計結果とグラフから、結果を読み取り考察を行う。					
15		<ol style="list-style-type: none"> 3. 学習した知識・技術を活用して実際のデータの処理とまとめ <p>実際の看護業務データに学習した知識・技術を適用して情報を処理し、その結果を分析して考察を行いまとめる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①データ収集の方法と分析方法 ②表の作成と計算（内部関数・外部関数の活用） ③グラフ化 ④結果の読み取りと考察の記述 ⑤論文形式でまとめ、印刷 提出 <p>※ データー処理に関する授業は関連があるため、やむを得ない事情を除いて、継続して授業に参加すること</p>					
使用テキスト							
太田勝正 前田樹海著:エッセンシャル看護情報学 第3版 医歯薬出版株式会社							

評価方法

出席、課題提出及び内容、課題試験で評価する。

担当講師の実務経験

大学、病院、看護協会、看護師養成所等で当該科目の非常勤講師の経験を有する。

日本語表現法		開講時期	1年次前期	単位数	1	時間数	15
科目責任者	大場 理恵子						
科目設定理由	人は、多様な価値観、知識、経験を持っている。看護師として他の医療者と協働しながら患者を支えるためには、自分や他者のコミュニケーションの取り方や思考のくせ、価値観を理解し、必要があれば調整できる力や、文章や情報を正確に読み解き、論理的に考え、文章や口頭でわかりやすく表現する力が必要である。また、これらは、看護専門学校での学びの基礎となる力でもある。本科目は、このような表現の力を身につけることで、多様な人々と意思疎通をし、良好な関係を築くための素地を養う。						
科目目標	コミュニケーションに必要な「伝える」「受けとめる」力を身につける。 さらに、お互いに貢献し、成長するためのコミュニケーション力を身につける。						
回数	担当講師	講義内容					
1	大場理恵子	1. 効果的な自己紹介					
2		2. メールの書き方					
3		3. 伝えるコツ					
4		4. 論理的文章の書き方					
5		5. スピーチのコツ					
6		6. レポート作成の基本①					
7		7. レポート作成の基本②					
8		8. レポート作成の基本③ / 学習のふりかえり					
使用テキスト 資料を配布する。							
評価方法 授業参加度(授業内課題含む)、提出物、レポート、試験で評価する。							
授業を受ける際の留意点 学んだことを他科目の学習や生活でも活かすことを目的にし、積極的に授業に参加すること。							
担当講師の実務経験 複数の大学・看護専門学校等で当該科目の非常勤講師の経験を有する。							

哲学		開講時期	1年次後期	単位数	1	時間数	15
科目責任者	杉本 隆久						
科目設定理由	哲学を学ぶことにより、これから看護に関わるものとして、人間理解を深めるとともに、哲学的なものの見方や考え方ができるようになることをねらいとしている。						
科目目標	私たちは事物をどのように認識しているのか（認識論）、存在の意味とは何か（存在論）、言葉およびその意味とは何か（言語論）といった問いに対する哲学的な考え方を理解することで、生命の尊厳、人間尊重、倫理観に基づいた行動や思考ができるようになるための基礎を養う。						
回数	担当講師	講義内容					
1	杉本 隆久	1. 哲学とは何か——哲学と哲学的思考					
2		2. 人間とは何か——人間の本質と人間の尊厳					
3		3. 存在とは何か——存在の意味と人間存在					
4		4. 言葉とは何か——言葉と意味					
5		5. 日常の中の哲学的思考1——現象学					
6		6. 日常の中の哲学的思考2——知覚と身体現象学					
7		7. 看護と哲学——他者と人間関係の形成					
8		8. 看護と哲学——ケアと哲学					
使用テキスト テキストは使用しない。適宜プリントを配布する。							
参考図書 木田元著『現代の哲学』（講談社学術文庫）、M. メルロ=ポンティ著『知覚の現象学』（法政大学出版局） パトリシア・ベナー他著『看護ケアの臨床知』（医学書院） その他の参考図書については、授業内で紹介する。							
評価方法 出席、試験で評価する。							
担当講師の実務経験 複数の大学で当該科目の非常勤講師としての経験を有する。							

心理学		開講時期	1年次前期	単位数	1	時間数	30
科目責任者		櫻田 千早					
科目設定理由		心理学的知見から看護の対象である人間を理解することをねらいとする。					
科目目標		こころとは何か、心理学の歴史的背景と諸分野、科学としての心理学を学ぶ。人間の心理をさまざまな角度から学ぶことで、そこに看護の対象である患者理解の一部があることを把握する。加えて、看護する者としての自己理解を意識する端緒としていく。					
回数	担当講師	講義内容					
1	櫻田 千早	第1回 ガイダンス／患者の理解					
2		第2～3回 感覚／知覚					
3		第4～5回 記憶／学習					
4		第6～7回 感情／動機づけ					
5		第8～9回 認知／社会・集団心理					
6		第10～11回 発達心理／ライフサイクル					
7		第12～13回 パーソナリティ／知能					
8		第14～15回 医療者・看護職者の理解／まとめ					
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
使用テキスト 系統看護学講座 基礎分野 心理学 医学書院							
参考図書 看護学生のための心理学 医学書院							
評価方法 授業参加度、レポート、試験で評価する。							
担当講師の実務経験 臨床心理士・公認心理師 大学病院での臨床経験及び、医学部生・看護学生の授業経験を有する。							

社会学		開講時期	1年次前期	単位数	1	時間数	30
科目責任者	石黒 史郎						
科目設定理由	社会学の分野の中でもとりわけ人びとにとっての身近な社会である「家族」に焦点をあて、医療との関わりを確認しながら現代社会における家族の現状について学ぶ。本科目を通して、社会的に家族をみること、家族を相対化してみることができ、社会的存在としての人間の理解が深まることを期待する。						
科目目標	家族・地域社会・職場などの生活の場を通して社会的存在としての人間を理解する。						
回数	担当講師	講義内容					
1	石黒 史郎	普段の生活と医療化	たとえば、あなたの家族や身近な人が入院したばあいを想像してほしい。そのことは多かれ少なかれあなたの生活に影響を与えるのではないだろうか。また、われわれがけがや病気で病院へ行くとき、ふだんの仕事や生活を一時的に中断する必要があるのがふつうである。つまり、病院をおとずれる人、そこで一定期間を過ごす人の生活や人間関係は、病院にとどまらないひろがりを持っているのである。 これは、患者だけでなく看護師などの医療関係者についても同様で、そうした人たちにも、やはり病院外での生活がある。講義では、このように病院をとりかこむ「ふだんの生活」と医療との関わりを確認した上で、現在の「ふだんの生活」の特徴、その中で患者や看護師などとも深く関わってくる家族の現状について説明していく。わたしたちがあたりまえだと思っているような家族のありかたも、じっさいには歴史や社会によって大きく変化してきている。説明の際には、現在の家族を自明視しない研究を蓄積してきた家族社会学の視点を基本にしながら、統計資料、歴史・民俗資料、映像資料などをその補助に使用する。講義は毎回配布するレジュメにそってすすめ、教科書は指定しない。講義中にはグループワークを行い、たびたび発言をもとめるので、はずかしがらず、ふてくされず参加すること。				
2		普段の生活と医療のさかいめ					
3		職住分離と複数の生活の場					
4		現代の生活のなかの「役割」					
5		公的な場面での役割と私的な場面での役割					
6		労働の市場化と現代の家計					
7		「ふつう」を支える家事の変遷					
8		性別役割分業とケア役割					
9		子育て、こどもの位置づけの変化					
10		若者の自立と親子関係					
11		結婚の変化と現代の結婚難					
12		産児調整の普及と子ども数の変化					
13		現代的な問題としての優生思想					
14		世帯と家族の人数の変化					
15		今後の人口の変化と地域生活					
使用テキスト 毎回配布するレジュメにそってすすめ、教科書は指定しない。							
参考図書 西野理子・米村千代:よくわかる家族社会学 ミネルヴァ書房							
評価方法 試験および平常点で評価する。							
担当講師の実務経験 大学、看護師養成所等で当該科目の非常勤講師の経験を有する。							

看護英会話		開講時期	1年次前期	単位数	1	時間数	30
科目責任者	ロイス・マーク (Lois Mark)						
科目設定理由	英語によるコミュニケーションはグローバル化する看護の現場に欠かせないスキルである。英語で英語圏の文化を理解し、英語によるコミュニケーションの基礎能力を身につけ、グローバル化に対応しうる能力を養うことをねらいとする。						
科目目標	英語ネイティブスピーカーの発話に慣れ、日本語を母国語としない人との会話に対応できる能力を養う。 1. ネイティブスピーカーによる、生きた英語を聴いて理解できる。 2. 英語で簡単な会話ができる。						
回数	担当講師	講義内容					
1	ロイス・マーク Lois Mark ターニャ・ヤクリッチ・ハタ Tanja Jaklic Hata	自己紹介に始まり、身近な生活に関わる話題について表現できる。 そのためにも、自然の速度で話される英語を理解する訓練をしながら、日常生活や医療の場面の英語でのコミュニケーションを実践する。 Self Introduction / Course description Self Intro Presentation Unit1 : Please speak more slowly. Unit2 : Where are you from ? Unit3 : Could you tell me your address, please ? Unit4 : What department do you want to visit ? Unit5 : Where is the X-ray department ? Unit6 : What are your symptoms ? Unit7 : Where does it hurt ? Unit8 : Have you ever had any serious illnesses ? Unit9 : Have you ever had any serious illnesses ? Unit10 : Let me make an appointment for your test. Unit11 : Your surgery will be tomorrow at 9 a.m. Unit12 : How are you feeling today ? Final Exam					
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
使用テキスト 知念クリスティーン 上瀧真紀恵:クリスティーンのやさしい看護英会話 医学書院							
評価方法 授業参加度、試験で評価する。							
担当講師の実務経験 英語、英会話に関する長年の教育経験を有する。							

コミュニケーションの基礎		開講時期	1年次後期	単位数	1	時間数	15
科目責任者	村上 志保						
科目設定理由	人間関係の基礎的理論やカウンセリング技法を学び体験的にコミュニケーション能力を高めることをねらいとする。						
科目目標	1. 人間関係成立におけるコミュニケーションの意義と方法が理解できる。 2. カウンセリングを活かしたコミュニケーションの実際を学ぶ。 3. 看護におけるコミュニケーションの意義が理解でき、実践につなげられる。						
回数	担当講師	講義内容					
1	村上 志保	1. 看護者の神話とコミュニケーションに起こりやすいズレよりよい人間関係を築く重要な法則：問題所有の原則（1～3章）					
2		2. [相手が問題をもつとき] 受動的な聞き方、能動的な聞き方（4・5章）					
3		3. 能動的な聞き方の実例①と練習（6～8章）					
4		4. 能動的な聞き方の実例②とロールプレイによる演習（9～11・13章）					
5		5. 能動的な聞き方の実例③、死と向き合う人への援助 [問題なし領域] 私を主語に語る、宣言のわたしメッセージ（12・14章）					
6		6. 肯定のわたしメッセージでよいところ探し 返事のわたしメッセージで断る練習 予防のわたしメッセージ					
7		7. [自分が問題をもつとき] 対決のわたしメッセージと能動的な聞き方への切りかえ（15・16章）					
8		7. 勝者も敗者もない対立の解決方法（第三法） 環境にも働きかける（17・18章）					
		8. 価値観の対立を解く方法（20章） ※19章は2年生の「自己と他者の理解」で学びます。					
使用テキスト 中井喜美子 近藤千恵：看護ふれあい学講座 照林社							
評価方法 1. 授業中に行うミニレポート（毎回提出） 2. 出席状況							
担当講師の実務経験 当該分野の博士課程を経て、親業訓練協会インストラクターとして多数の講演・講座の経験を有する。							

創造と表現		開講時期	1年次後期	単位数	1	時間数	15
科目責任者		柳原 和代					
科目設定理由		創造的に自己を表現し、適切に自己開示、自己呈示できる力を身につけ、場面や役割に応じて、他者に良い印象を残せるよう自らの振る舞いを適切にコントロールする重要性を学ぶことをねらいとする。					
科目目標		1. 音楽や演奏、ダンスなどを通じて、楽しみながら創造的に自らを表現する。 2. 医療現場での接遇の重要性がわかる。 3. 円滑な人間関係づくりのための印象づくりや振る舞いがわかる。					
回数	講師名	講義内容					
1	桑原 直子	【自己表現】 歌を使って表現しよう コミュニケーションゲーム 身体を使って表現しよう エアロビクス 創作ダンス					
2							
3							
4							
5	大山亜沙美 山本 恵 他	【自己開示・自己呈示】 患者と接する際に求められる接遇能力を身につけよう					
6		<ul style="list-style-type: none"> ・病院における接遇の重要性・心構え ・豊かな表情のつくりかた（笑顔トレーニング） 					
7		<ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみ ・伝わる話しかた 					
8		<ul style="list-style-type: none"> ・基本の姿勢・振る舞いかた 					
使用テキスト 必要時に資料を配付する。							
評価方法 出席、提出物、参加状況、内容等 とする。							
担当講師の実務経験 複数の公立学校等で長年、教諭としての経験を有する。 ホスピタルコンシェルジュ講座受講 大学病院の特別室フロアにおけるコンシェルジュ業務の実務を有する。							

専門基礎分野

1. 考え方

「専門基礎分野」は、基礎分野と共に、専門分野である看護学を学ぶ上で土台となる科目群である。ここでは、「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」「健康支援と社会保障制度」を学ぶ。人体の発生と構成、形態と機能について学び、人間の生命につながる営みである日常生活行動の理解を深める。人間を生活者として全人的にみつめ、看護の視点から病的状態に至る過程とその変化に注目し、回復を促進させるメカニズムを理解する。これらの学びによって、科学的根拠に基づいた看護実践に必要な臨床判断能力の基盤づくりをめざす。さらに、人々が生涯を通じて健康や障害の状態に応じて社会資源を活用できるよう、今日の保健・医療・福祉の動向と社会保障制度を学び、よりよく生きようとする社会的存在としての人間の理解を深める。これらの学びをとおして、看護を実践するために必要な専門知識を身につけることをねらいとする。

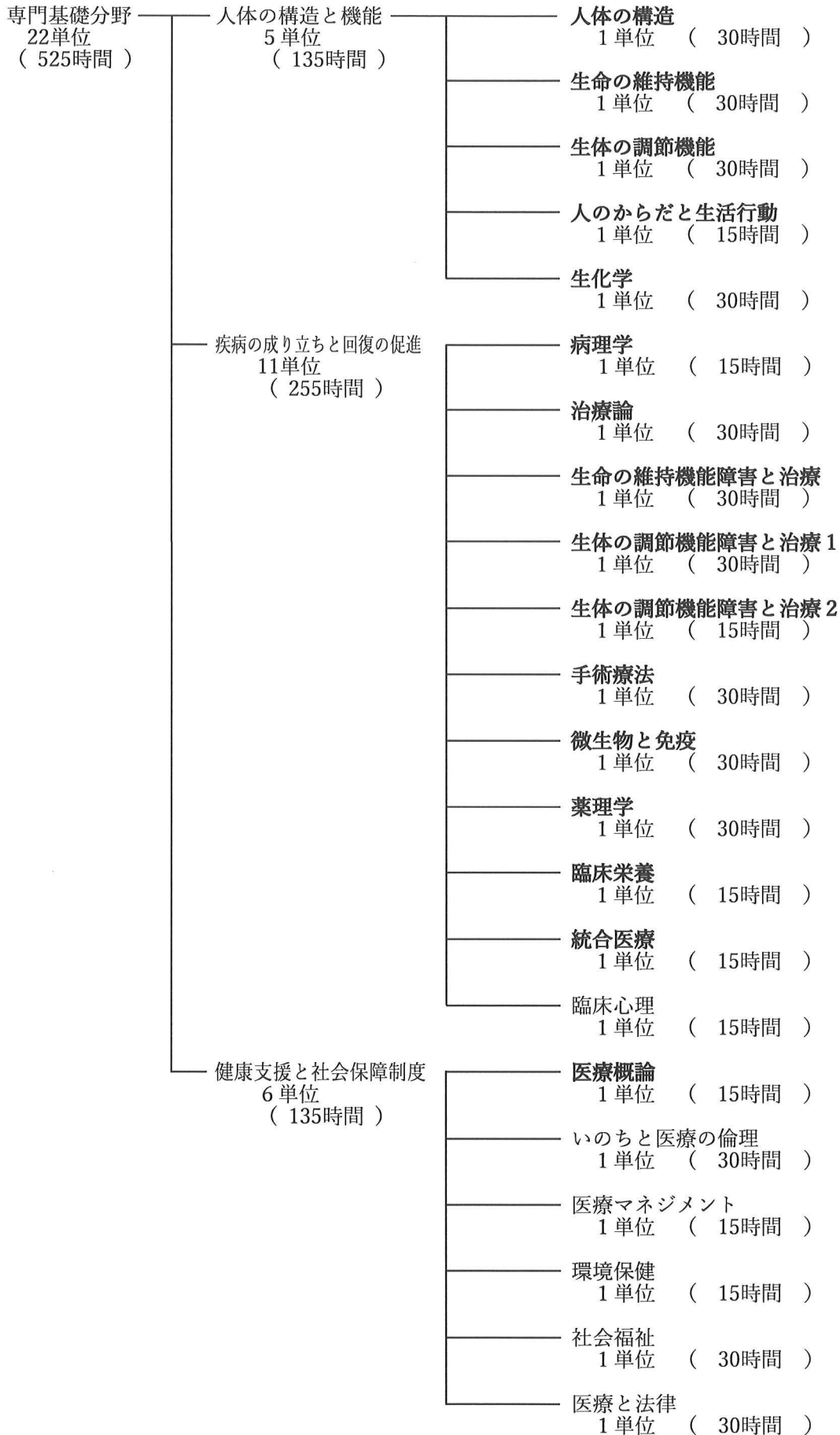
2. 目的

- 1) 日常生活行動を営むための人間の生命現象の基礎を理解する。
- 2) 生活との関連において、健康から疾病にいたる変化のプロセスと回復のメカニズムを理解する。
- 3) 人々の健康や障害の状態に応じた社会保障制度を理解する。

3. 目標

- 1) 人体の発生と形態、構造と生命の維持、調節機能を理解する。
- 2) 人体の構造と機能と生活行動を結びつけて系統的に理解する。
- 3) 生体を構成する物質と代謝の機能を理解する。
- 4) 病因と病変の特徴と、系統別疾患の病態、治療、検査について理解する。
- 5) 微生物の特徴と人体に及ぼす影響を理解する。
- 6) 薬物の特徴、作用機序、人体への影響を知り、臨床薬理の実際を理解する。
- 7) 各栄養素の栄養的意義と臨床栄養の実際を理解する。
- 8) 健康生活と薬、東洋医学や補完代替療法の基礎を理解する。
- 9) 人びとの心理的問題や心理療法、病む人の心への援助を理解する。
- 10) 医療を担う専門職者として、医療、健康、疾病の考え方、連携、協働の必要性を理解する。
- 11) 生命倫理の基礎を理解し、倫理に基づいて行動する力を身につける。
- 12) 環境保健に関する諸統計と保健活動、保健医療福祉の動向、制度を理解する。
- 13) 医療システムや関係する法規を知り、医療従事者としての責務と責任を理解する。

4. 専門基礎分野の構成



人体の構造		開講時期	1年次前期	単位数	1	時間数	30
科目責任者	岡部 正隆						
科目設定理由	健康を維持している「人体」を理解するための入り口として、形態と構造を学ぶ。人体の正常な構造と機能の知識をもとに、疾病の成り立ちが理解されるようになり、それに基づいて治療、看護が行われる。看護の学びを進めるために、正常な人体の理解が欠かせない。人体の健康なありようを理解する基礎となる科目として設定する。						
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の構造を、解剖用語を使って説明できる。 2. 諸器官の形態と機能を系統別に整理して説明できる。 3. 器官系間の相互連携を機能と関連づけて説明できる。 4. 正常な構造・機能が破綻した場合、どのような病態が出現するか説明できる。 						
回数	担当講師	講義内容					
1	岡部正隆 辰巳徳史	1. 解剖学総論（対面授業）					
2	辰巳徳史	2. 骨格系（オンディマンド授業）					
3		3. 筋系（オンディマンド授業）					
4		4. 中枢神経系（オンディマンド授業）					
5		5. 末梢神経系（オンディマンド授業）					
6		6. 感覚器系（オンディマンド授業）					
7	岡部正隆・辰巳徳史・ 桑原俊男・矢野十織・ 庄野孝範 他	7. 見学解剖実習1（登校授業 西新橋）					
8		8. 見学解剖実習2（登校授業 西新橋）					
9	辰巳徳史	9. 循環器系・呼吸器系（オンディマンド授業）					
10		10. 血球・リンパ系・免疫（オンディマンド授業）					
11		11. 消化器系（オンディマンド授業）					
12		12. 泌尿器系・内分泌系（オンディマンド授業）					
13		13. 生殖器系・発生（オンディマンド授業）					
14	岡部正隆・辰巳徳史・ 桑原俊男・矢野十織・ 庄野孝範 他	14. 見学解剖実習3（登校授業 西新橋）					
15		15. 見学解剖実習4（登校授業 西新橋）					
使用テキスト							
坂井建雄／橋本尚詞著 ぜんぶわかる人体解剖図 成美堂出版							
評価方法							
試験 70%、提出課題への取り組み 30%の割合で評価を行う。							
授業を受ける際の留意点							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 登校授業 は15分以上の遅刻は欠席とする。 2. 提出課題へのフィードバックはe-learning上にて個別に行う。 3. 講義資料で当該領域 の全容を把握し、指定教科書の指定のページを熟読し、知識を深め、提出課題に取り組むこと。 4. 知識を十分に定着させるために、復習のための学修時間は各講義あたり60分程度が望ましい。 5. 疑問点や理解できなかった点は、積極的にe-learning上で質問して解決すること。 							
担当講師の実務経験							
東京慈恵会医科大学 解剖学講座							

<h1>生命の維持機能</h1>		開講時期	1年次前期	単位数	1	時間数	30
科目責任者	竹森 重						
科目設定理由	人体の正常な機能の知識をもとに、疾病の成り立ちが理解されるようになり、それに基づいて治療、看護が行われる。看護の学びを進めるために、正常な人体における生命の維持機能の理解が欠かせない。生命維持に必要な身体の諸機能を理解することをねらいとする。						
科目目標	ヒトが生命を維持する仕組みの全体像をつかむ。 ヒトが生命をどのように維持しているのか全体像をつかんでいることが、看護をはじめとする医療活動をより良く実践するために必要となる。						
回数	担当講師	講義内容					
1	竹森 重	生命を支える細胞外液環境を恒常に保つネガティブフィードバック					
2		細胞外液の濃さ(浸透圧)					
3		体温の調整					
4		浸透圧の調節					
5		血液の循環					
6		心臓のはたらき					
7		血液中の細胞					
8		血液中のタンパク質					
9		酸性とアルカリ性					
10		呼吸とその調節					
11		尿生成とその調節					
12		消化と吸収					
13		肝臓のはたらき					
14		酸塩基平衡					
15		まとめ					
使用テキスト							
系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能1 解剖生理学 医学書院							
評価方法							
毎時間提出するまとめと、試験で評価する。							
担当講師の実務経験							
東京慈恵会医科大学 分子生理学講座 生理学の研究と教育							

<h1>生体の調節機能</h1>		開講時期	1年次 前期	単位数	1	時間数	30
科目責任者	立花 利公						
科目設定理由	様々な情報を受容する感覚器系と、その情報を処理した上で人体の骨格系を動かすために必要な神経系、および人体の恒常性（ホメオスタシス）を維持するために必要な自律神経系と内分泌系を理解することをねらいとする。						
科目目標	人体を正常に調節している神経系や内分泌系のしくみを理解する。						
回数	担当講師	講義内容					
	立花 利公	系統看護学講座・人体の構造と機能（1）の第8章、第6章を中心に第9章についても一途講義内容とする。					
1		一般的な細胞および細胞小器官の基礎的な構造と生理機能					
2		神経細胞や神経膠細胞およびシナプスなどの構造と機能					
3		頭蓋骨及び中枢神経系の外観					
4		大脳半球の内部構造および機能局在					
5		間脳、脳幹、小脳、および脳の血管系					
6		脊椎と脊髄の構造および脊髄神経					
7		脳神経および下行性伝導路（錐体路）					
8		皮膚の構造と機能、皮膚や深部感覚器および上行伝導路と痛みについて					
9		視覚器（眼球および外眼筋）の構造と機能および視覚情報の伝導路					
10		平衡聴覚器、味覚、嗅覚の構造と機能およびそれぞれの伝導路					
11		自律神経系 1					
12		自律神経系 2					
13		内分泌系 1					
14		内分泌系 2					
15	大脳皮質の局所障害、意識障害など						
使用テキスト							
系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 1 解剖生理学 医学書院 坂井建雄／橋本尚詞：ぜんぶわかる人体解剖図 成美堂出版							
評価方法							
試験で評価する。							
担当講師の実務経験							
東京慈恵会医科大学 総合医科学研究センター 基盤研究施設							

人のからだと生活行動		開講時期	1年次前期	単位数	1	時間数	15
科目責任者		都留 万里子					
科目設定理由		看護は、人のからだに働きかけて疾病をもち治療を受けながらも、日々の暮らしをその人らしく全うできるようにするための支援をする。この科目では、人体の構造と機能が生活行動の中でどのように使われているのかを知り、看護学の視点から人のからだを系統だてて理解する力を身につける。この科目での学びを土台に、健康・疾病・障害と生活行動に関する観察力、判断力を養い、臨床判断能力の基盤とすることをねらいとする。					
科目目標		人体の構造と機能がその人の生活行動にどのようにかかわっているのかを知り、看護学の視点からからだをみる力を養い、病態理解と看護援助の学習に興味を持って取り組む基盤とする。自分たちが毎日使っている人体の構造、機能と日常の生活行動を結びつけて、人のからだを見直してほしい。					
回数	担当講師	講義内容					
1	看護教員	1. 何のための生活行動か 2. 看護実践に活かす「人体の構造と機能」					
2		3. 動く					
3		4. 食べる					
4		5. 息をする					
5		6. 話す・聞く					
6		7. トイレで排泄する					
7		8. 眠る					
8		9. お風呂に入る・身なりを整える					
使用テキスト 菱沼典子 著:看護形態機能学 生活行動からみるからだ 第4版 日本看護協会出版会 坂井建雄/橋本尚詞:ぜんぶわかる人体解剖図 成美堂出版 参考図書 大久保暢子 編集:新体系看護学全書 専門基礎分野 人体の構造と機能③ 形態機能学 メヂカルフレンド社							
評価方法 授業への参加度、レポート提出及び試験で評価する。							
担当講師の実務経験 専任看護教員							

生化学		開講時期	1年次 前期	単位数	1	時間数	30
科目責任者	田島 彩沙						
科目設定理由	生体を構成する物質やそれらの物質が生体内でおこす生理化学反応ならびに代謝を理解し、生命維持の基礎的現象を学ぶことは、看護実践の基盤として重要である。生命維持に必要な栄養素の構造など生体への栄養の意義も含むものとする。						
科目目標	1. 生体を構成している物質の基本的構造と機能について理解する。 2. 生体で起こる基本的な代謝（生体内における化学反応）について理解する。 3. 物質の代謝と排泄および異化・同化について学び生命維持のしくみを理解する。 4. 遺伝について学び生体が構成されるしくみを理解する。 5. 臨床生化学検査を理解する。						
回数	担当講師	講義内容					
1	田島 彩沙	1. 生化学のための化学（元素・単位） 2. 細胞の構造と機能 3. 細胞小器官（オルガネラ） 4. 糖質 5. 脂質 6. エイコサノイド 7. 蛋白質 8. 酵素 9. ビタミン・無機質（ミネラル）・補酵素 10. 代謝Ⅰ 糖質 11. 代謝Ⅱ 脂質 12. 代謝Ⅲ タンパク質・アミノ酸 13. 窒素化合物の排泄 14. 遺伝子-蛋白質合成（遺伝子の発現）					
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15	臨床検査技師 佐藤 亮	15. 臨床生化学検査 ・血液検体の扱い方（抗凝固処理、血清分離） ・血液生化学検査 ・その他					
使用テキスト							
系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能2 生化学 医学書院							
評価方法							
試験で評価する。							
担当講師の実務経験							
東京慈恵会医科大学 臨床検査医学講座							

病理学		開講時期	1年次前期	単位数	1	時間数	15
科目責任者		河内 香江					
科目設定理由		疾病の成り立ち、メカニズムの理解は、看護実践の基盤として重要である。人間の疾病について、その原因と発生機序を細胞組織の形態変化と照らし合わせ、疾病の成り立ちについて理解することをねらいとする。					
科目目標		病理学は疾病の成り立ち、メカニズムを形態学的に理解しようとする学問である。器官、組織、細胞の形態と機能の変化を理解し、疾病の要因と病変の特徴を理解する。					
回数	担当講師	講義内容					
1	河内 香江	1. 序論 1) 病理学とは 2) 病因・病気の成り立ち 3) ホメオスタシス 4) 退行性変化 ①変性 ②萎縮 ③細胞死 5) 進行性病変 ①肥大 ②過形成 ③再生 ④化生					
2		2. 炎症と免疫・アレルギー 1) 炎症の原因と分類 2) 炎症の基本組織反応 3) 炎症の修復機転 4) 免疫反応					
3		3. 奇形・遺伝性疾患・先天性代謝障害 1) 発生要因 2) 発生と種類					
4		4. 代謝障害 1) アミノ酸代謝障害 2) 蛋白質代謝障害 他					
5		5. 受け身の病変 1) 変性・萎縮・壊死 2) 増殖性病変					
6		6. 感染症 1) 感染性病原体の種類と感染症 2) 感染に対する防御機構 3) 微生物の伝染と拮がり 4) 病原体が疾患を引き起こす機序 5) 感染症に対する炎症反応の種類					
7		7. 循環障害 1) 虚血・梗塞・ショック・うっ血 2) 浮腫 3) 出血					
8		8. 腫瘍 1) 腫瘍とは 2) 腫瘍の分類 3) 転移 4) 悪性度と臨床病期分類 5) 発がんのしくみ					
<p>使用テキスト 下 正宗 他：コアテキスト2 疾病の成り立ちと回復の促進1・総論 医学書院</p> <p>参考図書 中野 昭一：図説 病気の成り立ちとからだⅠ・Ⅱ 医歯薬出版</p>							
<p>評価方法 試験で評価する。</p>							
<p>担当講師の実務経験 東京慈恵会医科大学 病理学講座 / 東京慈恵会医科大学附属柏病院 病理部 医師</p>							

<h1>治療論</h1>		開講時期	1年次 後期	単位数	1	時間数	30
科目責任者	戸谷 直樹						
科目設定理由	疾病からの回復の促進のための治療の原理とその影響についての理解は、看護実践の基盤として重要である。疾病の回復を促進するための治療についての基礎的知識を学ぶことをねらいとする。						
科目目標	1. 放射線の生体に及ぼす影響と回復促進の原理を理解する。 2. 手術が生体に及ぼす影響と回復促進の原理を理解する。 3. 救急医療の概念を知り救急医療の実際を理解する。 4. リハビリテーションの理念を知りリハビリテーションの実際を理解する。						
回数	担当講師	講義内容					
1	湊 恭輔 樋口 陽大 鈴木 宏明	【放射線療法】					
2		1. 放射線の人体への影響					
3		2. 放射線診断 3. 放射線治療 4. 放射線防護の基本					
4	戸谷 直樹	【外科的療法】					
5		1. 外科医学の基礎 2. 外科的治療を要する疾患・症状 3. 外科的治療を支える分野 4. 外科的治療の実際					
6	鹿瀬 陽一	5. 手術侵襲と生体反応					
7		6. 麻酔とは何か					
8		7. 酸素運搬とモニタ					
9		8. 酸素投与方法 9. 疼痛管理					
10	卯津羅雅彦 長谷川意純 並木 宏也 他	【救急治療】					
11		1. 救急医療の概念 2. ショック 3. 救急処置					
12		一次救命処置（BLS演習） 二次救命処置（ICLS） 4. 災害医療					
13	長谷川 雄紀	【リハビリテーション療法】					
14		1. リハビリテーションの概念 2. リハビリテーション医学 3. 高齢者のリハビリテーション					
15		4. リハビリテーションの実際					
使用テキスト							
系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ 医学書院							
評価方法							
試験で評価する。							
担当講師の実務経験							
東京慈恵会医科大学 臨床医学講座 / 東京慈恵会医科大学附属柏病院 医師 放射線技師							

生命の維持機能障害と治療		開講時期	1年次後期	単位数	1	時間数	30
科目責任者		小武海 公明					
科目設定理由		疾病・障害からの回復の促進についての理解は、看護実践での臨床判断能力の基盤となる。この科目では、循環器系疾患、呼吸器系疾患、血液造血器系疾患、腎・泌尿器系疾患、感染性の疾患についての基礎的知識を学ぶことをねらいとする。					
科目目標		循環器系疾患、呼吸器系疾患、血液造血器系疾患、腎・泌尿器系疾患、感染症の主な症状と検査、病態と治療を理解する。					
回数	担当講師	講義内容					
1	小武海 公明 横山 正明 木下 浩司	【循環器系疾患】					
2		1. 循環器疾患の主な症状					
3		1) 呼吸困難 2) 動悸 3) 胸痛 4) 浮腫 5) ショック					
4		2. 循環器疾患の主な検査 3. 代表的疾患の病態と治療 1) 心不全 2) 虚血性心疾患 3) 不整脈 4) 弁膜症 5) 動静脈疾患					
5	戸根 一哉	【呼吸器系疾患】					
6		1. 呼吸器疾患の主な症状					
7		1) 咳嗽、喀痰、咯血 2) 呼吸の異常（呼吸困難） 3) チアノーゼ 4) 胸痛 2. 呼吸器疾患の主な検査 3. 代表的疾患の病態と治療 1) 上気道・気管支：気管支炎・気管支喘息 2) 肺：肺炎・肺結核・肺線維症・肺気腫・肺がん・慢性閉塞性肺疾患 3) 横隔膜：横隔膜ヘルニア					
8	増岡秀一 西脇嘉一 香取美津治	【血液造血器系疾患】					
9		1. 造血器疾患の主な症状 1) 貧血 2) 白血球増加症・白血球減少症 3) 脾腫 4) リンパ節腫脹 5) 出血性素因 2. 造血器疾患の主な検査 1) 血液検査 2) 骨髄穿刺 3) リンパ節生検 4) アイソトープ検査 5) 脾腫・リンパ節腫脹の触診					

回数	担当講師	講義内容
10	香取美津治	3. 造血器疾患の主な病態と治療 1) 白血病 2) 悪性リンパ腫 3) 骨髄腫 4) 出血性疾患（紫斑病・血友病・DIC）
11	池田 雅人 清水 昭博	【腎・泌尿器系疾患】 1. 腎・泌尿器疾患の主な症状 1) 尿の異常 2) 電解質の異常 3) 浮腫 4) 高血圧 5) 循環器系、血液の異常 2. 腎・泌尿器疾患の主な検査 1) 尿検査 2) 腎機能検査 3) X線撮影 4) 腎生検
12		3. 腎・泌尿器系疾患の主な病態と治療 1) 糸球体腎炎・ネフローゼ症候群 2) 腎不全（急性腎不全・慢性腎不全・透析療法）
13		
14	吉川 晃司	【感染症】 1. 感染症の主な症状、検査、治療 1) 主な症状：発熱、発疹、下痢、意識障害、せき 2) 主な検査：顕微鏡、培養、血清学、分子生物学 3) 主な治療薬：抗生物質、抗真菌薬、抗ウイルス薬 4) 予防接種 2. 主な臓器別感染症 1) 菌血症および敗血症 2) 感染性心内膜炎 3) 中枢神経系感染症 4) 呼吸器感染症 5) 消化器系感染症 6) 尿路感染症 7) HIV感染症と日和見感染症 8) 薬剤耐性菌感染症 9) 全身性ウイルス疾患 10) 輸入感染症
15		3. 個人および施設内の感染予防対策
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 3 循環器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 4 血液・造血器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 2 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 8 腎・泌尿器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 11 アレルギー 膠原病 感染症 医学書院		
評価方法 試験で評価する。		
担当講師の実務経験 東京慈恵会医科大学 臨床医学講座 / 東京慈恵会医科大学附属柏病院 医師		

生体の調節機能障害と治療1		開講時期	1年次後期	単位数	1	時間数	30
科目責任者	谷口 洋						
科目設定理由	疾病・障害からの回復の促進についての理解は、看護実践での臨床判断能力の基盤となる。この科目では、消化器系疾患、脳神経系疾患、内分泌系疾患、膠原病・アレルギー疾患についての基礎的知識を学ぶことをねらいとする。						
科目目標	消化器系疾患、脳神経系疾患、内分泌系疾患、膠原病・アレルギー疾患の主な症状と検査、病態と治療を理解する。						
回数	担当講師	講義内容					
1	内山 幹 岩下 祐子 政木 隆博	【消化器系疾患】 1. 消化器系疾患の主な症状 1) 食欲不振 2) 腹痛 3) 嚥下困難 4) 胸やけ 5) 嘔気・嘔吐 6) 吐血・下血 7) 下痢・便秘 8) 腹部膨満 9) 黄疸 10) 門脈圧亢進 2. 消化器系疾患の主な検査 1) 消化管X線検査 2) 内視鏡検査 3) 肝機能検査 4) 腹部超音波検査 5) 腹部CT 6) 肝生検 3. 消化器系疾患の主な病態と治療 1) 食道：逆流性食道炎・食道静脈瘤 2) 胃・十二指腸：胃炎・胃・十二指腸潰瘍 3) 大腸：急性腸炎・過敏性腸症候群・潰瘍性大腸炎・クローン病・大腸ポリープ 4) その他：腹膜炎・急性虫垂炎・ヘルニア・イレウス 5) 肝臓：ウイルス性肝炎・肝硬変症・肝障害・自己免疫性肝疾患 6) 胆道：胆石症・胆道感染症・胆嚢ポリープ 7) 膵臓：膵炎・膵臓がん ー手術療法を除く					
2							
3							
4							
5							
6	谷口 洋 幕 昂大 宮川 晋治	【脳神経系疾患】 1. 脳神経系疾患の主な症状 1) 意識障害 2) 高次脳機能障害 3) 運動機能障害 4) 感覚機能障害 5) 主な反射性運動の障害 6) 頭蓋内圧亢進症と脳陥入 7) 髄膜刺激症状 2. 脳神経系疾患の主な検査 1) 神経学的診察 2) 神経生理学的検査 3) 脳波・MRI・脳血管撮影 3. 脳神経系疾患の主な病態と治療 1) 脳血管障害（クモ膜下出血・脳出血・脳梗塞・脳動脈瘤） 2) 脳神経変性・脱髄疾患（パーキンソン氏病・筋萎縮性側索硬化症 等） 3) 炎症性疾患・感染症（脳炎・髄膜炎）					
7							
8							
9							

回数	担当講師	講義内容
10	山城 健二	【内分泌系疾患】 1. 内分泌系疾患の主な症状 1) 体重変化(るい瘦・肥満) 2) 容貌変化 3) 神経・筋症状 4) 血圧以上 2. 内分泌系疾患の主な検査 1) 血液検査(ホルモン濃度など) 2) 画像検査 3. 内分泌系疾患の主な病態と治療 1) 視床下部、下垂体：巨人症・尿崩症 2) 甲状腺：甲状腺機能亢進症・低下症 3) 副腎：クッシング症候群・アジソン病
11		
12	辻本 裕紀	【代謝系疾患】 1. 代謝系疾患の主な症状 1) 血糖異常(高血糖・低血糖・耐糖能障害) 2) 糖尿病合併症 3) 脂質異常 4) 尿酸代謝異常 2. 代謝系疾患の主な検査 1) 血液検査(代謝産物など) 2) インスリン分泌能検査 など 3. 代謝系疾患の主な病態と治療 1) 糖尿病(1型・2型・合併症・二次性糖尿病) 2) 高脂血症・高尿酸血症 3) メタボリックシンドローム
13		
14	浮地 太郎	【膠原病／アレルギー疾患】 1. 膠原病の主な症状と検査、病態、治療 1) SLE 2) 強皮症 3) 皮膚筋炎・多発性筋炎 4) 関節リウマチ 5) シェーグレン症候群 6) 血管炎症候群 その他 2. アレルギー性疾患の主な症状と検査、病態、治療 1) アレルギー性疾患の検査と診断 2) アナフィラキシー 3) その他のアレルギー性疾患
15		
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学5 消化器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学7 脳・神経 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学6 内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学11 アレルギー 膠原病 感染症 医学書院		
評価方法 試験で評価する。		
担当講師の実務経験 東京慈恵会医科大学 臨床医学講座 / 東京慈恵会医科大学附属柏病院 医師		

生体の調節機能障害と治療2

開講時期

1年次
後期

単位数

1

時間数

15

科目責任者 小林 俊樹

科目設定理由

疾病・障害からの回復の促進についての理解は、看護実践での臨床判断能力の基盤となる。この科目では、運動器疾患、耳鼻咽喉疾患、眼疾患、皮膚疾患についての基礎的知識を学ぶことをねらいとする。

科目目標

運動器疾患、耳鼻咽喉疾患、眼疾患、皮膚疾患の主な症状と検査、病態と治療を理解する。

回数

担当講師

講義内容

1

2

3

原田 直毅
羽尾 元史
牛久 智加良

【運動器疾患】

1. 運動器疾患の主な症状
 - 1) 疼痛
 - 2) 変形
 - 3) 神経麻痺
 - 4) 運動障害
2. 運動器疾患の主な検査
 - 1) 骨密度測定
 - 2) 関節鏡検査
 - 3) 造影検査
3. 運動器疾患の主な病態と治療
 - 1) 骨折
 - 2) 関節変形性疾患：関節リウマチ
 - 3) 脊椎の疾患：腰椎椎間板ヘルニア・脊髄損傷
 - 4) 骨腫瘍
 - 5) 治療 ー手術療法を除く
 - (1) 保存療法：牽引・ギプス・副子固定
 - (2) リハビリテーション

4

5

小林 俊樹

【耳鼻咽喉疾患】

1. 耳鼻咽喉疾患の主な検査
 - 1) 聴力検査
 - 2) 平衡機能検査
 - 3) 耳鏡、鼻鏡、喉頭鏡検査
 - 4) ファイバースコープ検査
2. 耳鼻咽喉疾患の主な病態と治療
 - 1) 外耳疾患：外耳炎・外耳道異物・耳垢栓塞・鼓膜損傷
 - 2) 中耳疾患：急性化膿性中耳炎・耳管狭窄症および滲出性中耳炎・慢性中耳炎
 - 3) 内耳疾患：突発性難聴・メニエール病・老人性難聴
 - 4) 鼻・副鼻腔疾患：鼻出血・慢性副鼻腔炎・アレルギー性鼻炎
 - 5) 口腔疾患：急性扁桃炎・口蓋扁桃肥大・咽頭扁桃（アデノイド）肥大
咽頭異物、舌がん
 - 6) 咽頭・喉頭疾患：急性咽喉頭炎・声帯ポリープ・咽頭がん・喉頭がん

回数	担当講師	講義内容
6	渡邊 友之 山脇 佳子	【眼疾患】 1. 眼疾患の主な症状 1) 視力障害 2) 視野異常 3) 色覚異常 4) 複視 2. 眼疾患の主な検査 1) 視力検査 2) 屈折検査 3) 視野検査 4) 眼圧検査 5) 眼底写真撮影 3. 眼疾患の主な病態と治療 1) 水晶体の疾患：老人性白内障・糖尿病白内障 2) 眼底の疾患：糖尿病網膜症・網膜剥離・黄斑疾患 3) 眼圧の異常：閉塞隅角緑内障・開放隅角緑内障 4) ブドウ膜炎 5) 角膜疾患
7		【皮膚疾患】 1. 皮膚疾患の主な症状 1) 発疹 2) 癢痒 2. 皮膚疾患の主な検査 1) アレルギー検査 2) 光線過敏性検査 3) 病原微生物の検査 4) 病理組織検査 3. 皮膚疾患の主な病態と治療・処置 1) 外用療法 2) 手術療法 3) 光線療法 4) レーザー療法 5) 凍結療法 4. 皮膚疾患の主な病態と治療 1) 接触皮膚炎 2) アトピー性皮膚炎 3) 蕁麻疹 4) 薬疹 5) 乾癬 6) 熱傷 7) 褥瘡 8) 悪性黒色腫 9) レックリングハウゼン病 10) 足白癬、皮膚・粘膜カンジダ症 11) 単純疱疹、帯状疱疹 12) 麻疹、水痘 13) 疥癬
8	脇 裕磨	
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 10 運動器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 14 耳鼻咽喉 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 13 眼 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 12 皮膚 医学書院		
評価方法 試験で評価する。		
担当講師の実務経験 東京慈恵会医科大学臨床講座 / 東京慈恵会医科大学附属柏病院 医師		

<h1>手術療法</h1>		開講時期	1年次 後期	単位数	1	時間数	30
科目責任者		戸谷 直樹					
科目設定理由		疾病・障害からの回復の促進についての理解は、看護実践での臨床判断能力の基盤となる。この科目では、手術療法を必要とする主な疾患の病態と検査、術式と術後管理についての基礎的知識を学ぶことをねらいとする。					
科目目標		手術療法を必要とする主な疾患の病態と検査、術式と術後管理について理解する。					
回数	担当講師	講義内容					
1	森 彰平	【肺縦郭】 1. 肺がん 1) 病態と検査（胸部レントゲン・CT画像の特徴と見かた） 2) 主な手術と術後管理 2. 縦隔腫瘍 1) 病態と検査 2) 主な手術と術後管理 3. 気胸 1) 病態と検査（胸部レントゲンの特徴と見かた） 2) 手術と胸腔ドレナージ					
2							
3	三宅 亮	【乳房】 1. 乳がん 1) 病態と検査（マンモグラフィー 等） 2) 主な手術と術後管理					
4	林 勝彦	【口腔外科】 1. 主な症状と検査 2. 主な病態（う蝕・歯周病・顎顔面外傷・腫瘍 等）と治療 3. 周術期口腔機能管理と口腔ケア					
5	高橋 直人	【上部消化管】 1. アカラシア・食道裂肛ヘルニア・食道がん 1) 病態と検査 2) 主な手術と術後管理 2. 胃がん 1) 病態と検査 2) 主な手術（開腹術・腹腔鏡）と術後管理					
6	恩田 真二	【膵臓・胆道系】 1. 膵臓がん 1) 病態と検査 2) 主な手術と術後管理 2. 胆石症 1) 病態と検査 2) 術式と術後管理					
		【肝臓・脾臓】 1. 肝がん 1) 病態と検査 2) 主な手術と術後管理 2. 肝移植 1) 対象となる主な疾患 2) 術式と術後管理 3. 脾臓摘出術 1) 対象となる主な疾患と手術					
7	北川 和男	【下部消化管】 1. 潰瘍性大腸炎・クローン病 1) 病態と検査 2) 主な手術と術後管理 2. 結腸がん・直腸がん 1) 病態と検査（腹部レントゲン・CT画像の特徴と見かた） 2) 主な手術と術後管理					

回数	担当講師	講義内容
8	雨谷 優 石割 圭一	【心臓血管系】 1. 虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞） 1) 病態と検査（冠動脈造影・心エコーなど） 2) 主な手術と術後管理（冠動脈バイパス術・カテーテル治療PCI） 2. 弁膜症 1) 病態と検査 2) 主な手術と術後管理（弁置換術・形成術）
9	戸谷 直樹	3. 大動脈瘤 1) 病態と検査 2) 主な手術と術後管理（人工血管置換術・血管内治療）
10	水之江 裕子	【女性生殖器】 1. 子宮筋腫・子宮内膜症 1) 病態と検査 2) 主な手術と術後管理 2. 子宮がん 1) 病態と検査（内診・腔鏡診・経腔超音波検査など） 2) 主な手術と術後管理
11	木島 永二	【骨・筋・関節】 1. 大腿骨頸部骨折・上腕骨骨折 1) 病態と検査（レントゲンの特徴と見かた） 2) 主な手術と術後管理 2. 椎間板ヘルニア 1) 病態と検査 2) 主な手術と術後管理
12	山元 駿	3. 変形性関節症 1) 病態と検査 2) 主な手術と術後管理
13	岩谷 洸介	【腎泌尿器】 1. 腎腫瘍 1) 病態と検査 2) 主な手術と術後管理 2. 膀胱腫瘍 1) 病態と検査 2) 主な手術と術後管理 3. 前立腺肥大症・前立腺がん 1) 病態と検査 2) 主な手術と術後管理
14	堀内 一史	【脳神経】 1. 頭部外傷 1) 病態と検査（頭部CT、MRI画像の特徴と見かた） 2) 主な手術と術後管理 2. 脳腫瘍 1) 病態と検査（頭部CT、MRI画像の特徴と見かた） 2) 主な手術と術後管理
15	栃木 悟	1. 脳血管疾患 1) 病態と検査（頭部CT、MRI画像の特徴と見かた） 2) 主な手術と術後管理（脳室ドレナージ等）
使用テキスト 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学2 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学3 循環器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学5 消化器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学7 脳・神経 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学8 腎・泌尿器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学9 女性生殖器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学10 運動器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学14 耳鼻咽喉 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学15 歯・口腔 医学書院		
評価方法 試験で評価する。		
担当講師の実務経験 東京慈恵会医科大学 臨床医学講座 / 東京慈恵会医科大学附属柏病院 医師		

微生物と免疫		開講時期	1年次前期	単位数	1	時間数	30
科目責任者	田嶋 亜紀子						
科目設定理由	病原微生物についての基礎的知識や病原微生物が人体に及ぼす影響についての理解は看護実践の基盤である。感染の成立様式や予防、生体防御機構の破綻による感染症やアレルギーについての基礎的知識を理解することをねらいとする。						
科目目標	人に病気をおこす病原微生物について、感染様式と病原性、さらには診断、治療、予防について、古典的な感染症から、最近のトピックスまで学ぶ。さらに、生体防御機構の破綻によって起こる感染症やアレルギーを理解するために免疫学を学ぶ。						
回数	担当講師	講義内容					
1	田嶋亜紀子	1. 微生物と微生物学、細菌の性質					
2	進士ひとみ	2. 感染源・感染経路からみた感染症					
3		3. 自然免疫					
4		4. 獲得免疫					
5		5. 感染症の予防と対策					
6		6. 各論：グラム陰性菌					
7	千葉 明生	7. 各論：グラム陽性菌					
8	千葉 明生	8. 各論：その他の細菌、感染症の治療					
9	田嶋亜紀子	9. 真菌学 総論、各論					
10	進士ひとみ	10. 原虫学 総論、各論					
11	吉澤 幸夫	11. ウイルス学総論：構造と増殖					
12		12. ウイルス学各論Ⅰ：DNA ウイルス・RNA ウイルス					
13		13. ウイルス学各論Ⅱ：呼吸器と消化器に感染するウイルス					
14		14. ウイルス学各論Ⅲ：肝炎ウイルス					
15		15. ウイルス学各論Ⅳ：ヒト免疫不全ウイルス					
使用テキスト 新体系看護学全書 微生物学・感染制御学 メヂカルフレンド社							
参考図書 病気がみえる vol.6 免疫 膠原病 微生物 メディックメディア 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 4 微生物学 医学書院							
評価方法 試験で評価する。							
担当講師の実務経験 東京慈恵会医科大学 細菌学講座							

薬理学		開講時期	1年次後期	単位数	1	時間数	30
科目責任者	山澤 徳志子						
科目設定理由	治療に使われている薬物の基礎知識、薬理作用、人体への影響についての理解は、臨床判断や看護実践の基盤として重要である。薬物の特徴、作用機序、人体への影響および主な治療薬について理解することをねらいとする。						
科目目標	薬物に関する基礎知識、各薬物の薬理作用、副作用および薬物の使い方について理解する。						
回数	担当講師	講義内容					
1	山澤 徳志子	1. 薬とは何か					
2		1) 薬とは何か					
3		2) 薬の名称					
4		3) 薬に関する法律					
5		4) 主作用と副作用、有害作用					
6		2. 薬理作用とは何か					
7		1) 薬理作用					
8		2) 薬物受容体					
9		3) 薬効に影響を及ぼす因子					
10		3. 薬の運命					
11		1) 薬の生体内動態 ; 吸収、分布、代謝、排泄					
12		4. 主な治療薬の特徴					
13		1) 化学療法薬 (抗悪性腫瘍薬を含む)					
14		2) アレルギーおよび炎症に対する薬物					
15		抗ヒスタミン薬 抗アレルギー薬 非ステロイド性炎症薬					
	3) 末梢神経系作用薬: 自律神経薬、筋弛緩薬、局所麻酔薬						
	4) 中枢神経系作用薬: 全身麻酔薬、催眠薬、抗けいれん薬、向精神薬 パーキンソン症候群治療薬、鎮痛薬						
	5) 循環器系作用薬: 強心薬、抗不整脈薬、狭心症治療薬、降圧薬、利尿薬						
	6) 血液・造血器系作用薬: 貧血治療薬、抗凝血薬、血栓溶解薬						
	7) 呼吸器系作用薬: 気管支喘息治療薬						
	8) 消化器系作用薬: 胃・十二指腸潰瘍治療薬						
	9) 消毒薬						
	10) ホルモンおよびホルモン拮抗薬: 膵臓、副腎皮質、甲状腺、性ホルモン						
使用テキスト							
系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 3 薬理学 医学書院							
評価方法							
試験で評価する。							
担当講師の実務経験							
東京慈恵会医科大学 総合医科学研究センター基盤研究施設							

<h1>臨床栄養</h1>		開講時期	1年次 後期	単位数	1	時間数	15
科目責任者	湯浅 愛						
科目設定理由	各栄養素の栄養的意義について理解し、正しい食生活のありようを整えるための基礎的知識を学ぶ。栄養と食事の人々の健康維持に関する役割を理解して臨床栄養を学び、食事療法の支援に関与できる力を養う科目とする。						
科目目標	1. 各栄養素の栄養的意義について理解する。 2. 臨床栄養、食事療法の意義と実際について学ぶ。						
回数	担当講師	講義内容					
1	湯浅 愛	【各栄養素の栄養的意義】 1. 炭水化物 2. 脂質 3. 蛋白質 4. 無機質 5. ビタミン類 6. 水 【臨床栄養の意義と実際】 1. 臨床栄養の意義 2. 日本人の栄養所要量 ・我が国の栄養の現状と栄養改善 3. ライフステージと栄養 ・乳児から老年期まで 4. 疾患別食事療法の進め方 1) 糖尿病 2) 腎臓病 3) 脂質異常症 4) その他 5. 食事療法の実際 1) 病院給食 2) 病人食の種類と形態					
2							
3							
s							
5							
6							
7							
8							
使用テキスト							
わかりやすい栄養学 第5版 臨床・地域で役立つ食生活指導の実際 スーヴェルヒロカワ 糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版 文光堂							
評価方法							
試験で評価する。							
担当講師の実務経験							
東京慈恵会医科大学附属柏病院 栄養課 管理栄養士							

統合医療		開講時期	1年次後期	単位数	1	時間数	15
科目責任者	蔭山 博之						
科目設定理由	人びとの健康生活と薬、看護の現場で活用できる東洋医学や補完代替療法 等についての基礎的知識を学び、東西の医学、治療法を最適に組み合わせ、健康生活を維持し、疾病に対する自然治癒力を高め、苦痛を癒すためのケアについて理解することをねらいとする						
科目目標	1. 生体と薬の関わりを学び、東洋医学（漢方）による人の自然治癒力への働きかけについての基礎的知識を学ぶ。 2. 看護に活かす苦痛を癒すためのケアの実際を学ぶ。						
回数	担当講師	講義内容					
1	蔭山 博之	【臨床薬理】 1. 臨床薬理とは 2. 医薬品の開発と臨床試験 3. 薬物相互作用とからだ 4. エイジングと薬 5. 服薬指導と生活指導					
2							
3	吉田 勝明	【漢方医学】 1. 漢方の歴史 2. 生薬の種類と効用 3. 漢方記念館見学					
4							
5	リンパ浮腫療法士 専門看護師	【リンパドレナージとスキンケア】 1. 複合的浮腫療法（スキンケア・手動的リンパ誘導マッサージ・圧迫療法、圧迫下の運動療法）の指導・実施 2. 弾性ストッキングの指導日常的なセルフケアの指導 等					
6	鍼灸師 看護師 柿沼恵理子	【看護に活かす東洋医学】 1. 統合医療と看護の特徴 2. 東洋医学の基礎 3. 看護に活かせる東洋医学（ナーシングマッサージ）					
7							
8		4. 看護に東洋医学を取り入れよう（演習）					
使用テキスト 資料を配布する。 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進3 薬理学 医学書院							
評価方法 レポート、課題提出、試験等で総合的に評価する。							
担当講師の実務経験 東京慈恵会医科大学附属柏病院 薬剤師 / 大学講師 訪問看護ステーションゆめみらい リンパ浮腫療法士/弾性ストッキング・コンダクター 鍼灸師・看護師として活動する傍ら、大学等で非常勤講師としての経験を有する。							

<h1>医療概論</h1>		開講時期	1年次 前期	単位数	1	時間数	15
科目責任者	忽滑谷 和孝						
科目設定理由	医学・医療とは何か、医療システムにおける看護職および多職種の役割を理解し、連携・協働しながら看護を提供するための基礎的な知識を得ることをねらいとする。						
科目目標	<p>医療職を目指す学生に、自分達がどのような世界で働くのか、そのためにはどのようなことを学び、どのような心構えで臨むべきかを知る。</p> <p>ともに働く他の専門職の成り立ちと、それぞれが持つ知識・役割を知ること、医療現場における真の患者中心のコラボレーションを実現できるような人材へなることを期待する。</p>						
回数	担当講師	講義内容					
1	栗原 敏	1. 医療を学ぶ人たちに					
2	忽滑谷 和孝	2. 医学・医療のあゆみ ～医療・医学の歴史 ～治療のあゆみと医療者の誕生					
3		3. 健康と疾病 ～健康と疾病の概念 ～病気の成り立ち					
4		4. 医学と医療 ～現代医療の現場 ～医療技術の進歩					
5		5. 医学と看護学 6. 高木兼寛と慈恵医大					
6		7. ともに働く多職種の役割と専門性 ～医師はどのように患者に関わるのか					
7	高野 浩邦	8. 医療安全からみた多職種とのコラボレーション					
8	高橋 則子	9. 看護の専門性と多職種とのコラボレーション					
使用テキスト							
小橋 元他編集:学生のための医療概論 第4版 医学書院 系統看護学講座 別巻 総合医療論 医学書院							
評価方法							
出席、レポート提出及び内容で評価する。							
担当講師の実務経験							
東京慈恵会医科大学 理事 / 学校長 / 東京慈恵会医科大学附属柏病院 医療安全推進室室長							

基礎看護学

1. 考え方

基礎看護学では、すべての健康レベルにある人々を理解し、より健康で豊かな生活を送れるよう最善な援助を行うために必要となる基本的な知識・技術・態度を学習する。

専門分野であるすべての看護学の礎となる科目群であり、基礎分野・専門基礎分野での学びを基に、看護学に関する基本となる考え方、人間・環境・健康・看護についての概念、基礎となる看護技術、看護の役割を遂行するために必要な基礎的能力、看護過程を展開し応用できる能力を育成する。

社会は時代と共に変動し、看護に期待する役割も変化している。看護職は、多職種との連携、協働の中で、人びとの心身の健康の保持増進に寄与することが求められている。そのため、人間の健康の保持増進、回復、安寧な死に向けての保健医療福祉サービスの必要性についても学ぶ。さらに、先人の看護理論とわが国の看護史の礎である慈恵看護の変遷を学び、研究的態度を身につけて、生涯にわたり看護の本質を探求しつづける力の素地を養う科目群として位置づける。

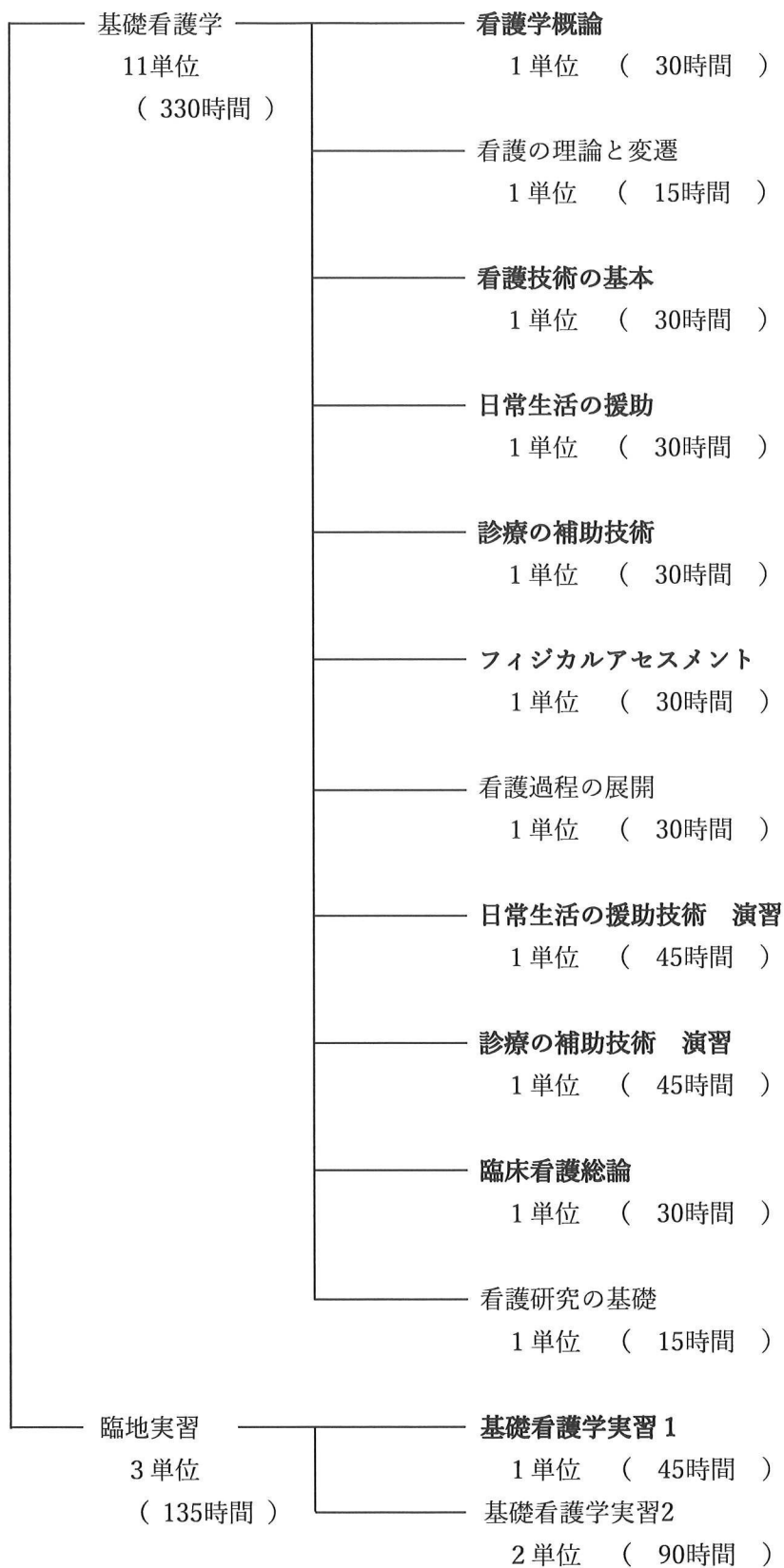
2. 目的

人間のライフサイクルにおける健康の意義、看護の対象としての人間、看護の概念、並びに保健・医療・福祉チームにおける看護の役割を認識し、看護の基礎となる知識・技術・態度を養う。

3. 目標

- 1) 人間のライフサイクルにおける健康の意義について理解できる。
- 2) 看護の対象を、身体的・精神的・社会的側面から学び、統一体として理解できる。
- 3) 看護の概念を学び、看護の役割を理解できる。
- 4) 慈恵看護史の学びを通して、看護理論の成立が理解できる。
- 5) 看護研究の意義が理解できる。
- 6) 看護実践における基礎看護技術を習得し、応用できる能力を養うことができる。

4. 基礎看護学の構成



看護学概論		開講時期	1年次前期	単位数	1	時間数	30
科目責任者		中尾 みさ子					
科目設定理由		基礎看護学は、すべての看護学の考え方の基盤となる分野である。看護学概論は看護の主要概念である人間・環境・健康・看護について学び、看護の本質、看護とは何か、またそれがどのような方向に発展しつつあるかを共に考えることをねらいとする。					
科目目標		看護の概念を理解し、看護の位置づけと役割を理解する。					
回数	講師名	学習形態	学習目標	学習内容			
1	中尾みさ子	講義	看護とは何かについて学び、看護独自の機能について考えることができる	序. 看護を学ぶにあたって			
2				1. 看護の概念			
3				1) 看護の変遷 2) 看護の定義 3) 看護の役割と機能			
4		講義	看護の対象である人間を多面的に理解できる	2. 看護の対象の理解			
5				1) 統合体（全体的存在）としての人間			
6				2) 生涯発達し続ける存在としての人間 3) 生活者としての人間			
7		講義 グループワーク	健康とは何かを学び、健康水準の向上のための保健医療活動を理解する	3. 健康と看護			
8				1) 健康の概念			
9				2) 健康の位置づけとその変化 3) 国民の健康状態			
10		講義	看護の機能と役割を理解し、看護実践活動の概要を理解する	4. 看護の提供の場			
11				1) 医療施設における看護 2) 地域における看護 3) 広がる看護活動の場			
12		講義	専門職としての資格や教育制度を学び、看護職者のキャリア開発の必要性を理解する	5. 看護の提供者			
13				1) 看護職の資格 2) 看護職の養成制度 3) 看護の継続教育とキャリア開発			
14		講義 グループワーク	看護における倫理の必要性について理解できる	6. さまざまな看護理論			
15				7. 看護における倫理			
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学Ⅰ 看護学概論 医学書院 看護覚え書き フローレンス・ナイチンゲール著、湯槇ます他訳 現代社 ナイチンゲールの「看護覚え書」イラスト・図解でよくわかる 西東社 看護の基本となるもの ヴァージニア・ヘンダーソン著 湯槇ます・小玉香津子訳 日本看護協会出版会							
評価方法 講義内課題の内容および提出状況、試験で評価する。							
担当講師の実務経験 専任看護教員							

看護技術の基本

開講時期

1年次
前期

単
位
数

1

時
間
数

30

科目責任者 藤川 和恵

科目設定理由 看護技術の構造を明らかにし、根拠にもとづき安全・安楽に看護実践できる原理と看護実践の基礎となるコミュニケーションを理解することをねらいとする。

科目目標
1. 看護実践のあらゆる場面に共通する基本的な看護技術を理解する。
2. 看護活動を安全・安楽に行うための知識・技術を理解する。
3. 看護におけるコミュニケーションの意義と方法を理解する。

基礎看護学

回数	講師名	学習形態	学習目標	学習内容
1	藤川和恵	講義	看護における技術の意味について考えることができる。看護場面に共通する基本的技術の意味について理解できる	1. 看護技術 1) 看護技術の意義・特殊性 2) 看護技術の基本的要素 3) 看護技術の倫理
2				
3		講義	看護における安全・安楽の意義と重要性について理解できる	2. 安全・安楽 1) 安全・安楽の意義 2) 安全・安楽を阻害する要因 3) 感染予防の基準
4		講義 グループ ワーク	看護における観察の意義、目的について理解できる 看護活動に必要な観察内容が理解できる	3. 観察 1) 観察の意義 2) 看護における観察の目的 3) 観察の方法と手段 4) 効果的な観察を行うための留意事項 5) 観察の視点と内容 (12の観察の視点)
5				
6				
7	藤川和恵	講義	看護における記録・報告の意義、目的について理解できる	4. 記録・報告 1) 記録・報告の意義 2) 看護における記録の意義 3) 記録・報告の種類 4) 記録・報告の原則と留意事項 5) 記録・報告の方法 5. カンファレンス
8				
9		講義	コミュニケーションの目的を理解し、効果的なコミュニケーション技術を理解する	6. コミュニケーション 1) コミュニケーションとは 2) コミュニケーションの過程と構成要素 3) コミュニケーションの影響を与える因子 7. 対人関係プロセスとしての看護 1) 看護師と患者の関係 2) 対人関係の成立に不可欠な要件
10		講義	看護におけるコミュニケーションの意義について理解できる	8. 看護とコミュニケーション 1) 文化とコミュニケーション 2) 看護理論とコミュニケーション 3) 看護におけるコミュニケーション

回数	講師名	学習形態	学習目標	学習内容
11	藤川和恵	講義	看護におけるコミュニケーションの意義について理解できる	9. 効果的なコミュニケーション実際 1) 傾聴の技術 2) 無条件の肯定的配慮 3) 共感的理解 10. 情報収集の技術 11. 説明の技術 12. 外国人患者とコミュニケーション 13. チーム医療におけるコミュニケーション
12		講義		14. コミュニケーション障害への対応 15. 看護の教育機能
13		講義 グループ ワーク	コミュニケーションの 実際	コミュニケーションの演習課題 1. 自分の価値を明確化してみよう 2. メッセージを共有する意欲を高めよう
14		講義 グループ ワーク		事例 3. 患者とのコミュニケーション 4. 患者理解と言葉かけ
15		講義 グループ ワーク		映像より 5. 看護コミュニケーション
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学2 基礎看護技術I 医学書院 看護技術 プラクティス 学研 ナイチンゲールの「看護覚え書」イラスト・図解でよくわかる 西東社				
参考図書 看護技術がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア 看護技術がみえる vol.2 臨床看護技術 メディックメディア				
評価方法 出席状況・演習参加状況・レポート内容と提出状況・試験で評価する。				
担当講師の実務経験 専任看護教員				

日常生活の援助		開講時期	1年次前期	単位数	1	時間数	30
科目責任者		廣瀬 純					
科目設定理由		対象の基本的欲求に応じた日常生活の援助を学び、根拠にもとづき安全・安楽に実践できる原理を理解することをねらいとする。					
科目目標		日常生活における対象のニーズを把握し、看護の役割を理解する。 日常生活の援助技術を理解し、対象に合わせた援助の必要性を理解する。					
回数	講師名	学習形態	学習目標	学習内容			
1	廣瀬 純	講義	療養生活の環境を構成する要素を知り、病床の環境のアセスメントと調整を理解する	1. 生活環境 1) 環境因子と環境調整の意義 2) 健康と生活環境 3) 病室と病床の環境調整			
2							
3							
4	中山千子	講義	ボディメカニクスの原理を理解し、体位変換の援助を学ぶ	2. 活動と休息 1) ボディメカニクス 2) 姿勢と体位 3) 休息と睡眠			
5							
6							
7	小鮎淳美	講義	清潔の意義と清潔における看護の役割を学び、援助の必要性と方法が理解できる 衣生活の意義と清潔における看護の役割を学び、援助の必要性と方法が理解できる	3. 身体の清潔・衣生活 1) 清潔の意義 2) 皮膚・粘膜の生理 3) 清潔の援助 4) 衣服の意義 5) 衣生活の援助			
8							
9							
10							
11							
12	荒関亜紗美	講義	人間にとっての「食事」の意義を理解し、援助の必要性とその方法が理解できる	4. 食事と栄養 1) 食事の意義 2) 食欲の生理 3) 食事の援助			
13							
14	廣瀬 純	講義	排泄の意義とメカニズム・アセスメントの方法を理解し自然排尿・排便の援助の方法を学ぶ	5. 排泄 1) 排泄の意義 2) 自然な排泄を促す援助 3) 排泄の援助			
15							
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学3 基礎看護技術II 医学書院 看護技術 プラクティス 学研 ナイチンゲールの「看護覚え書」イラスト・図解でよくわかる 西東社							
参考図書 看護技術がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア 看護技術がみえる vol.2 臨床看護技術 メディックメディア							
評価方法 試験で評価する。							
担当講師の実務経験 専任看護教員							

診療の補助技術		開講時期	1年次後期	単位数	1	時間数	30
科目責任者	藤川 和恵						
科目設定理由	診療に伴う援助を理解し、根拠にもとづき安全・安楽に実践できる原理を理解することをねらいとする。						
科目目標	診療時における対象のニーズを把握し、看護の役割を理解する。 診療に伴う援助技術を理解し、対象に合わせた援助の必要性を理解できる。						
回数	講師名	学習形態	学習目標	学習内容			
1	廣瀬 純	講義	感染と感染予防策の概要を理解する なかでも、感染成立の要件、スタンダードプリコーション、感染経路別予防策について理解する	1. 感染予防 1) 標準予防策 (スタンダードプリコーション) 2) 洗浄・消毒・滅菌 3) 無菌操作の実際 4) 感染性廃棄物の取扱い・針刺し防止策			
2							
3	横瀬洋子	講義	罨法の意義を理解し援助の方法を知る	2. 罨法 1) 罨法の基礎知識 2) 罨法の実際 (温罨法・冷罨法)			
4	小鮎敦美	講義	包帯法の基礎を理解し援助の方法を知る	3. 包帯法 1) 包帯法の基礎知識 2) 包帯法の実際			
5	廣瀬 純	講義	排便障害のある対象の援助が理解できる 排尿障害のある対象の援助が理解できる	4. 排便障害時の援助 1) 浣腸の種類と目的 2) 浣腸実施への援助 5. 排尿障害時の援助 1) 導尿の種類と目的 2) 導尿実施への援助			
6							
7	荒関亜紗美	講義	食事療法を受ける対象の援助が理解できる	6. 健康障害時の食事 1) 食事療法とは 2) 食事療法と必要とする対象の特徴 3) 食事療法を受ける対象への援助			
8	中山千子	講義	検査における看護師の役割と検査時の看護について理解できる	7. 検査 1) 検査時の基礎知識 2) 検査を受ける対象への援助			
9	荒関亜紗美	講義	酸素吸入療法を受ける対象の援助が理解できる	8. 酸素吸入療法 1) 酸素吸入療法の目的 2) 酸素吸入療法の方法と援助			

回数	講師名	学習形態	学習目標	学習内容
10	赤石澤幸子	講義	薬物の作用機序や体内動態など、薬物療法の基本を理解する 薬物療法の目的と意義を理解し、安全で適切な与薬を行うための方法と留意点を理解する	9. 与薬 1) 与薬に関する基礎知識 2) 薬物療法における看護の役割 3) 薬物療法における安全管理 4) 与薬の援助方法 経口与薬 経皮・外用薬 直腸内与薬 皮内注射 皮下注射 筋肉内注射 静脈内注射 点滴静脈内注射 10. 輸血療法 1) 輸血療法の意義と目的 2) 輸血療法を受ける対象への援助
11				
12				
13				
14				
15				
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学3 基礎看護技術II 医学書院 看護技術 プラクティス 学研 ナイチンゲールの「看護覚え書」 イラスト・図解でよくわかる 西東社 参考図書 看護技術がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア 看護技術がみえる vol.2 臨床看護技術 メディックメディア				
評価方法 試験で評価する。				
担当講師の実務経験 専任看護教員				

科目名		開講時期	1年次 通年	単位数	1	時間数	30
科目責任者		森元 洋子					
科目設定理由		看護におけるフィジカルアセスメントの概念と目的を理解し、対象に適した系統別フィジカルアセスメント方法を知り、アセスメントおよび看護実践に活かす基礎能力をつけることをねらいとする。					
科目目標		1. フィジカルアセスメントの技術を学ぶ。 2. アセスメントの方法、身体検査の技術とその審査技術の意味を学ぶ。					
回数	講師名	学習形態	学習目標	学習内容			
1	森元洋子	講義	看護におけるフィジカルアセスメントの意義を理解する	1. フィジカルアセスメント総論 1) 看護におけるフィジカルアセスメント 2) フィジカルアセスメントの基本原則 3) フィジカルアセスメントの基本技術 5つの基本技術 フィジカルアセスメントの進め方 2. 計測			
2			フィジカル・イグザミネーションの技術について理解する				
3	森元洋子	講義 演習	バイタルサイン測定の意義を理解する。 バイタルサインの体温・脈拍・血圧・呼吸について観察・測定の方法を理解する。	3. バイタルサイン 1) バイタルサインの意義 2) 呼吸			
4				3) 脈拍 4) 血圧			
5				5) 体温 6) 記録			
6							
7	森元洋子 他	演習	バイタルサイン測定ができる	バイタルサイン測定			
8	森元洋子	講義	全身の系統的なフィジカルアセスメントが理解できる	4. 呼吸器のアセスメント 1) 胸部形態と外観 2) 肺（呼吸音・振盪音・打診音）			
9		講義		5. 心臓・血管のアセスメント 1) 胸部の概観 2) 頸静脈、動脈 3) 振動、最大拍動点、心音			
10		講義		6. 乳房・腋窩のアセスメント 7. 腹部のアセスメント 1) 腹部全体 2) 動脈・腸管・肝臓・脾臓・腎臓			

回数	講師名	学習形態	学習目標	学習内容
11	森元洋子 他	演習	呼吸器、心臓・血管、腹部のアセスメントができる	4～7の学習内容をもとにフィジカルアセスメントを行う
12	森元洋子	講義 演習	全身の系統的なフィジカルアセスメントが理解できる	8. 皮膚・爪のアセスメント 9. 頭・頸部のアセスメント 1) 頭部 2) 鼻 3) 口腔 4) 首 10. 眼のアセスメント 1) 視神経、外眼筋機能 2) 外観、網膜 11. 耳のアセスメント 聴神経・外観・外耳・外耳道
13		講義 演習		12. 神経系のアセスメント 1) 各反射 2) 知覚、小脳機能
14		講義 演習		13. 筋・骨格のアセスメント 1) 関節 2) 四肢の筋力 3) 脊柱及び下肢の形態と歩行
15	森元洋子 他	演習	フィジカルアセスメントの基本技術ができる	技術確認
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学2 基礎看護技術 I 医学書院 看護がみえる vol. 3 フィジカルアセスメント メディックメディア 看護技術 プラクティス 学研 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学4 臨床看護総論 医学書院 ぜんぶわかる人体解剖図 成美堂出版 参考図書 フィジカルアセスメントガイドブック 看護のためのフィジカルアセスメントアドバンス インターメディカ				
評価方法 出席状況・演習参加状況・試験等で総合的に評価する。				
担当講師の実務経験 専任看護教員				

日常生活の援助技術 演習		開講時期	1年次前期	単位数	1	時間数	45
科目責任者		廣瀬 純					
科目設定理由		対象の日常生活援助に対応できる基礎的援助技術を学び、根拠にもとづき安全・安楽に実践できる能力を養うことをねらいとする。					
科目目標		日常生活に伴う援助技術を習得する。					
回数	講師名	学習形態	学習目標	学習内容			
1	廣瀬 純	実技	【生活環境】 寝心地の良いベッドを一人で作成することができる 患者の安全・安楽に配慮し一人でシーツ交換ができる	1. リネン類の取り扱い 2. 角の作り方			
2				1. クローズドベッドの作成 2. オープンベッドの作成 3. 2人で行うベッドメイキング 4. 臥床患者のシーツ交換			
3							
4							
5							
6							
7	中山千子	実技	【活動と休息】 ボディメカニクスを活用し、患者の安全・安楽に考慮しながら、体位変換、移乗・移送ができる	1. 体位変換 1) 枕の入れ方・外し方 2) 仰臥位でのベッド上の水平移動 3) 仰臥位から側臥位への移動 4) 仰臥位での上方への移動 5) 仰臥位から座位への移動 6) 座位から立位への移動			
8				1. 車椅子移動・移送 2. ストレッチャー移動・移送 3. 歩行の介助			
9							
10							
11	小鮎淳美	実技	【身体の清潔・衣生活】 対象に応じた目的と方法を理解し、安全・安楽に清潔の援助（口腔ケア、足浴、全身清拭・寝衣交換、洗髪）を行うことができる	1. 整容（口腔清拭）			
12				2. 部分浴（足浴）			
13				3. 全身清拭・寝衣交換			
14							
15				4. 洗髪			
16							
17							
18							
19							
20	荒関亜紗美	実技	【食事と栄養】 対象に応じた食事の援助を行うことができる	臥床患者への食事介助			
21							

回数	講師名	学習形態	学習目標	学習内容
22	廣瀬 純	実技	【排泄】 対象に適した用具を選択し安全・安楽に臥床患者の排泄の援助を行うことができる	1. 便器の介助 2. 尿器の介助
23				
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント メディックメディア 看護技術 プラクティス 学研 参考図書 看護技術がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア 看護技術がみえる vol.2 臨床看護技術 メディックメディア				
評価方法 実技試験（到達度）				
授業を受ける際の留意点 <ol style="list-style-type: none"> 1) 事前学習や自己学習を積極的に行い技術の習得に努める。 事前学習をして臨む。 <ol style="list-style-type: none"> ①提示された事前課題を行う。 ②ナースングスキルを前日までに視聴し、テストをうけて演習に臨む。 ③必要な資料は印刷し必ず持参する。 ④学習内容についてテキストを読む。 ⑤「看護技術の基本」「日常生活の援助」の講義内容のノートや資料を復習する。 ⑥参考図書、DVD、ナースングスキルなどの動画を活用する。 2) 演習は看護実習室で行う。 指定されたユニホームに着替え、看護実習室で患者・看護師・観察者役をとりながら「看護技術の基本」「日常生活の援助」で学習した内容の技術習得を目指す。 演習では、基本的に教員がデモンストレーションを行い、方法や注意点を説明する。 3) デモンストレーションの後、各ベッド（2人～3人）に分かれ、実施する。 4) デモンストレーションでは、教員がどのように身体を使っているか、各手順や留意点や根拠は何か、対象への配慮をどのように行っているのかを見て資料やテキストなどに追加記載する。 5) 実施の際、不明点や疑問点を教員に確認し、適切な技術を身につけられるようにする。 6) 患者役を行って気づいた点や感想を互いに批評し、技術の向上に努める。 7) 準備や行動は迅速に、効率的に行う。 8) 提示された事後学習の提出期限を守る。 9) 空き時間・放課後に各自練習する。 10) 学習内容は積み重ねのため、各演習の技術はその都度習得しながら進める。 *演習に臨む準備状況が整わない場合は、演習に参加できない場合がある。 				
担当講師の実務経験 専任看護教員				

診療の補助技術 演習		開講時期	1年次後期	単位数	1	時間数	45
科目責任者	藤川 和恵						
科目設定理由	対象の日常生活援助や診療に伴う援助に対応できる基礎的援助技術を学び、根拠にもとづき安全・安楽に実践できる能力を養うことをねらいとする。						
科目目標	診療に伴う援助技術を習得する。						
回数	講師名	学習形態	学習目標	学習内容			
1	廣瀬 純	実技	【感染予防】 正しい手指衛生ができる	1. 手指衛生・手指消毒 2. 無菌操作・滅菌物の取り扱い 3. 個人防護用具の取り扱い			
2			原理原則をふまえ無菌操作ができる				
3			個人防護用具の取り扱いができる				
4	横瀬洋子	実技	【電法】 効果的な電法を安全・安楽に行なえる	1. 温電法 2. 冷電法			
5	小鮎淳美	実技	【包帯法】 基本的な巻き方使い方ができる	1. 巻軸包帯 2. 三角巾			
6	廣瀬 純	実技	【排泄】 安全に留意し、効果的なグリセリン浣腸が実施できる	1. 浣腸 グリセリン浣腸			
7							
8	廣瀬 純	実技	安全に留意し、効果的な導尿が実施できる	2. 導尿 一時的導尿			
9							
10	中山千子	実技	【検査】 安全・安楽に確実な静脈血採血ができる	1. 静脈血採血 2. 尿検査			
11			正確に尿定性試験・尿比重測定ができる				
12	荒関亜紗美	実技	【酸素吸入療法】 患者の安全・安楽に配慮しながら、効果的な酸素吸入ができる	1. 酸素ポンベの取り扱い 2. 酸素吸入の方法			
13							
14	赤石澤幸子	実技	【薬物療法】 患者に安楽・安楽な方法で与薬ができる	1. 経口的与薬法 2. 直腸内与薬法			
15							
16							
17							

回数	講師名	学習形態	学習目標	学習内容
18	赤石澤幸子	実技	【薬物療法】 患者に安全・安楽な方法で与薬ができる	3. 筋肉内注射
19				4. 点滴静脈内注射
20				
21				
22	中山久江	実技	【吸引】 患者に安全・安楽な方法で吸引ができる	1. 口腔内吸引 2. 鼻腔内吸引
23	中山千子	実技	【創傷処置】 患者に安全・安楽な方法で創傷治療ができる	1. 創傷処置

使用テキスト

系統看護学講座 専門分野 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ 医学書院
 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学4 臨床看護総論 医学書院
 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院
 看護技術 プラクティス 学研
 看護技術がみえる vol.3 フィジカルアセスメント メディックメディア

参考図書

看護技術がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア
 看護技術がみえる vol.2 臨床看護技術 メディックメディア

評価方法

実技試験（到達度）

授業を受ける際の留意点

- 1) 事前学習や自己学習を積極的に行い技術の習得に努める。
事前学習をして臨む。
 - ①提示された事前課題を行う。
 - ②ナーシングスキルを前日までに視聴し、テストをうけて演習に臨む。
 - ③必要な資料は印刷し必ず持参する。
 - ④学習内容についてテキストを読む。
 - ⑤「日常生活の援助」「診療の補助技術」の講義内容のノートや資料を復習する。
 - ⑥参考図書、DVD、ナーシングスキルなどの動画を活用する。
- 2) 指定されたユニホームに着替え、看護実習室で患者・看護師・観察者役をとりながら「日常生活の援助」「診療の補助技術」で学習した内容の技術習得を目指す。
演習では、基本的に教員がデモンストレーションを行い、方法や注意点を説明する。
- 3) デモンストレーションの後、各ベッド（2人～3人）に分かれ、実施する。
- 4) デモンストレーションでは、教員がどのように身体を使っているか、各手順や留意点や根拠は何か、対象への配慮をどのように行っているのかを見て資料やテキストなどに追加記載する。
- 5) 実施の際、不明点や疑問点を教員に確認し、適切な技術を身につけられるようにする。
- 6) 患者役を行って気づいた点や感想を互いに批評し、技術の向上に努める。
- 7) 準備や行動は迅速に、効率的に行う。
- 8) 提示された事後学習の提出期限を守る。
- 9) 空き時間・放課後に各自練習する。
- 10) 学習内容は積み重ねのため、各演習の技術はその都度習得しながら進める。
*演習に臨む準備状況が整わない場合は、演習に参加できない場合がある。

担当講師の実務経験

専任看護教員

臨床看護総論		開講時期	1年次後期	単位数	1	時間数	30
科目責任者		藤川 和恵					
科目設定理由		「人体の構造と機能」「疾病の成り立ちと回復の促進」で学んだ知識を基盤に、看護の視点から主要な症状の原因、誘因およびメカニズム、成り行きを理解し、根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断（解釈・推論）、アセスメントを行い、対象に合わせた「看護過程の展開」につなげるための科目とする。					
科目目標		1. あらゆる対象に起こりうる主要な症状の原因、誘因およびメカニズムと成り行きを看護の視点から理解する思考を身につける。 2. 既習の知識を統合して対象の状態を理解し、症状に合わせて看護の必要性に気づくことができる。 3. 臨床判断、看護アセスメントの基礎的能力を身につける。					
回数	講師名	学習形態	学習目標	学習内容			
1	藤川和恵	講義	看護師の臨床判断プロセスを理解する	1. 臨床看護総論とは			
2				2. 看護師の臨床判断プロセス 1) 臨床判断プロセスの詳細 2) 経験と臨床判断 3) 医学における診断プロセス 4) 臨床判断の学び方 5) 気づく力・解釈する力・省察する力			
3	藤川和恵	講義 グループワーク	主要な症状のメカニズムと成り行きの理解をもとに、臨床判断のプロセスをたどって看護の必要性に気づくことができる	創傷管理技術			
4				体温調節機能障害のある対象者への看護 「発熱」			
5				循環に関連する症状を示す対象者への看護 「浮腫」			
6				呼吸に関連する症状を示す対象者への看護 「呼吸困難」			
7				(一次的吸引)			
8							
9							
10							
11	藤川和恵 永野栄美	グループワーク	事例の概要をつかみ、臨床判断、看護アセスメントができる	事例：慢性心不全患者の看護 (VISUALEARN)			
12				患者の「疾患」「症状」「治療・処置」を関連づけてアセスメントし、必要な看護を考える (グループ発表)			
13							
14							
15							
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学4 臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 参考図書 新体系 看護学全書 臨床看護総論 メヂカルフレンド社							
評価方法 出席状況・演習参加状況・試験等で総合的に評価する。							
担当講師の実務経験 専任看護教員							

地域・在宅看護論

1. 考え方

他国に類を見ない、急速な少子高齢社会が進展している。平均寿命やがん罹患後の生存年数の延伸など、社会情勢の変化や医療の発展に伴い社会のニーズも大きく変化している。医療・看護に対する人びとのニーズも増大し、多様化・複雑化している。そこで生活の質に焦点をあて、疾病や障害があっても、住み慣れた生活の場でその人らしく生活することを支えることが求められる。地域を基盤とした「地域包括ケアシステム」を導入し、従来の病院完結型から、医療・ケアと生活が一体化した地域完結型の体制への転換を図っている。多くの人びとが、住み慣れた地域において療養生活をできるようになり、健康の維持・増進、疾病の予防から始まり、疾病・障害を抱えながら療養生活を継続し、人生の終焉を迎えるまで地域で支えることが求められている。

そのため、地域・在宅看護論は、地域で療養している人に限らず、地域で生活する人びととその家族を対象とし、地域における多様な場での看護を学ぶ。更に病院から在宅への移行支援や継続看護を理解し、地域で生活する人びとと家族が、生活の場でよりその人らしい生活が送れるような療養生活の援助をするための基礎的能力を養う。

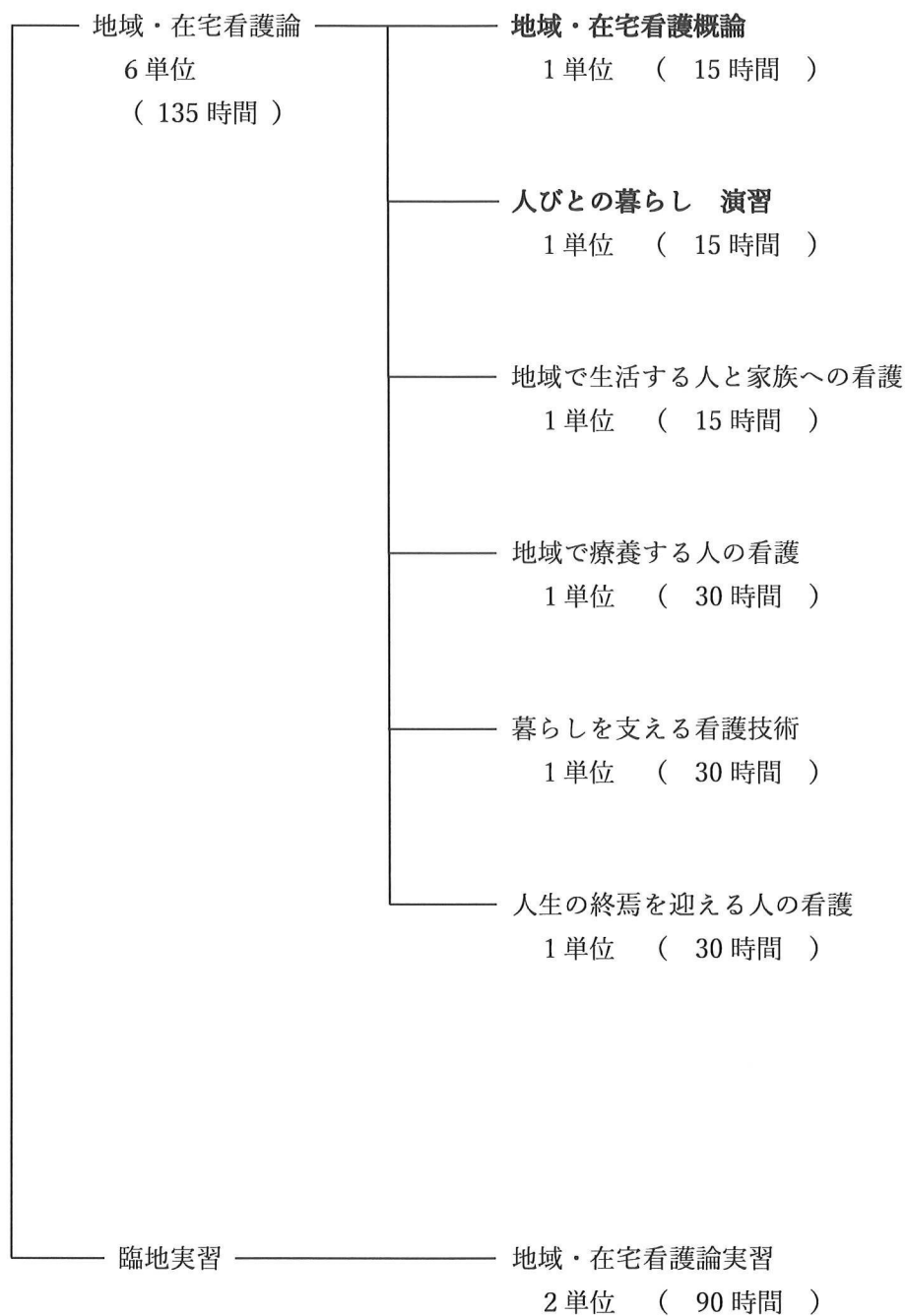
2. 目的

地域で生活する人とその家族を理解し、健康支援の看護や地域で療養生活の継続に向けての看護を学ぶ。

3. 目標

- 1) 地域で生活する人びとの暮らしと地域の特性を理解する。
- 2) 地域・在宅看護の変遷を知り、地域・在宅看護の必要性が理解できる。
- 3) 地域・在宅看護の対象を理解できる。
- 4) 地域で生活する人と家族の健康支援について理解できる。
- 5) 地域で療養する人と家族が、療養生活の継続に向けての看護が理解できる。
- 6) 地域・在宅における社会資源の活用について理解できる。
- 7) 地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関の連携の必要性を理解できる。
- 8) 在宅看護に必要な態度やマナーについて理解できる。

4. 地域・在宅看護論の構成



地域・在宅看護概論					開講時期	1年次 通年	単位数	1	時間数	15
科目責任者		柳原 和代								
科目設定理由		地域・在宅看護の対象や社会背景を捉えて、看護を実践していくために必要な基礎的知識を学ぶことをねらいとする。								
科目目標		1. 地域看護の歴史の変遷と現在の社会背景を理解し、在宅看護の意義と役割を理解する。 2. 地域・在宅看護の対象を理解し、地域包括ケアシステムの概要を理解する。								
回数	講師名	学習形態	学習目標	学習内容						
1	柳原和代	講義	現在の社会背景をふまえて、在宅看護が必要とされる根拠を理解する	1. 地域・在宅看護が必要とされる社会背景 1) 人口構造の動向 2) 健康に関する動向 3) 在宅ケア推進の必要性						
2			社会環境の変化と健康課題に対応した地域看護の歴史の変遷を知り、現在の在宅看護の位置づけを理解する	2. 地域看護と在宅看護の歴史 1) 社会背景と制度・法律の変遷 2) 変化する健康課題と地域看護						
3			地域・在宅看護の目的と特性を理解する	3. 地域・在宅看護の機能と役割 1) 在宅看護の理念 2) 在宅看護の目的と機能						
4			地域と在宅で看護を受ける対象の特徴を理解する	4. 地域・在宅看護の対象の理解 1) 対象者の特徴 ・年齢 ・疾患 ・障害 ・在宅療養状態別 2) 住み方と健康 3) 家族						
5										
6	横瀬洋子	講義 グループワーク	地域包括ケアシステムについての概要を理解する	5. 地域包括ケアシステムの概要 1) 地域包括ケアシステムとは 2) 地域包括ケアシステムの機能と構成要素 3) 地域包括ケアシステムにおける提供されるサービス						
7										
8	地域包括支援センター 保健師	講義	地域包括支援センターの役割を理解する	6. 地域包括支援センターの役割 1) 地域包括支援センターの機能と業務 2) 地域包括支援センターの職種と役割						
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 1 地域・在宅看護の基盤 医学書院 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 2 地域・在宅看護の実践 医学書院 国民衛生の動向 厚生統計協会										
評価方法 試験で評価する。										
担当講師の実務経験 専任看護教員 / 地域住民の保健医療の向上および福祉の増進を包括的に支援する経験を有する。										

人びとの暮らし 演習

開講時期

1年次
前期

単位数

1

時間数

15

科目責任者 柳原 和代

科目設定理由 地域で生活する人びとの健康や暮らしを支援するため、生活の基盤である「地域」を理解することをねらいとする。

科目目標
1. 生活する地域の特性を理解する。
2. 地域で生活する人びとの暮らしや生活文化、その環境や人びとのコミュニティの場を知る。

回数	講師名	学習形態	学習目標	学習内容
1	根本明美	講義	地域で暮らす人びとを取り巻く環境を理解する	1. 地域社会とは・人びとの地域社会とのかかわり
2	根本明美	演習	生活圏の地域の特性を理解する	2. フィールドワークの目標確認・情報収集
3	根本明美 柳原和代	演習	柏市および近隣の市のフィールドワークを行い、その地域で生活する人びとの暮らしの実態に触れる	3. フィールドワークのテーマおよび計画立案
4		演習	生活文化やその地区の環境や人びとのコミュニティの場を知る	4. フィールドワーク
5		演習		
6		演習	フィールドワークでの学びを共有しまとめることができる	5. フィールドワークの結果まとめ 報告用抄録作成、発表用のスライドの作成
7		講義 グループワーク	各グループでの学びを共有し、学びを深める	発表会 リフレクション
8		講義		

使用テキスト

系統看護学講座	専門分野	地域・在宅看護論	1	地域・在宅看護の基盤	医学書院
系統看護学講座	専門分野	地域・在宅看護論	2	地域・在宅看護の実践	医学書院

評価方法

レポート提出及び内容、参加度で評価する。

担当講師の実務経験

専任看護教員

成人看護学

1. 考え方

成人期は成長発達、成熟、そして衰退へと変化する人間のライフサイクルの中で、最も長い期間にあたる。

成人は一人の人間として、社会の中で中心的役割と責任を担う存在であり、発達段階を達成しながら生活し適応能力を高めていく。それに伴い、個々の価値観や自己概念を形成し、精神的な自律につなげ自己の存在を確認する。成人の健康は、生活習慣や環境、過剰なストレスの影響を受けやすい。そのため、心身上の健康問題から生命の危機状態に陥ったり、予期せぬ死との直面によって本人及び周囲の人々は大きな衝撃を受け、経済的基盤の揺らぎ、社会的役割の変更などの問題を抱える。成人看護学は、成人期にある人の特徴を理解し、人々の成長発達・適応・自律を促し、疾病からの回復への援助とともに成人期にある人の健康を保持増進することをめざす。

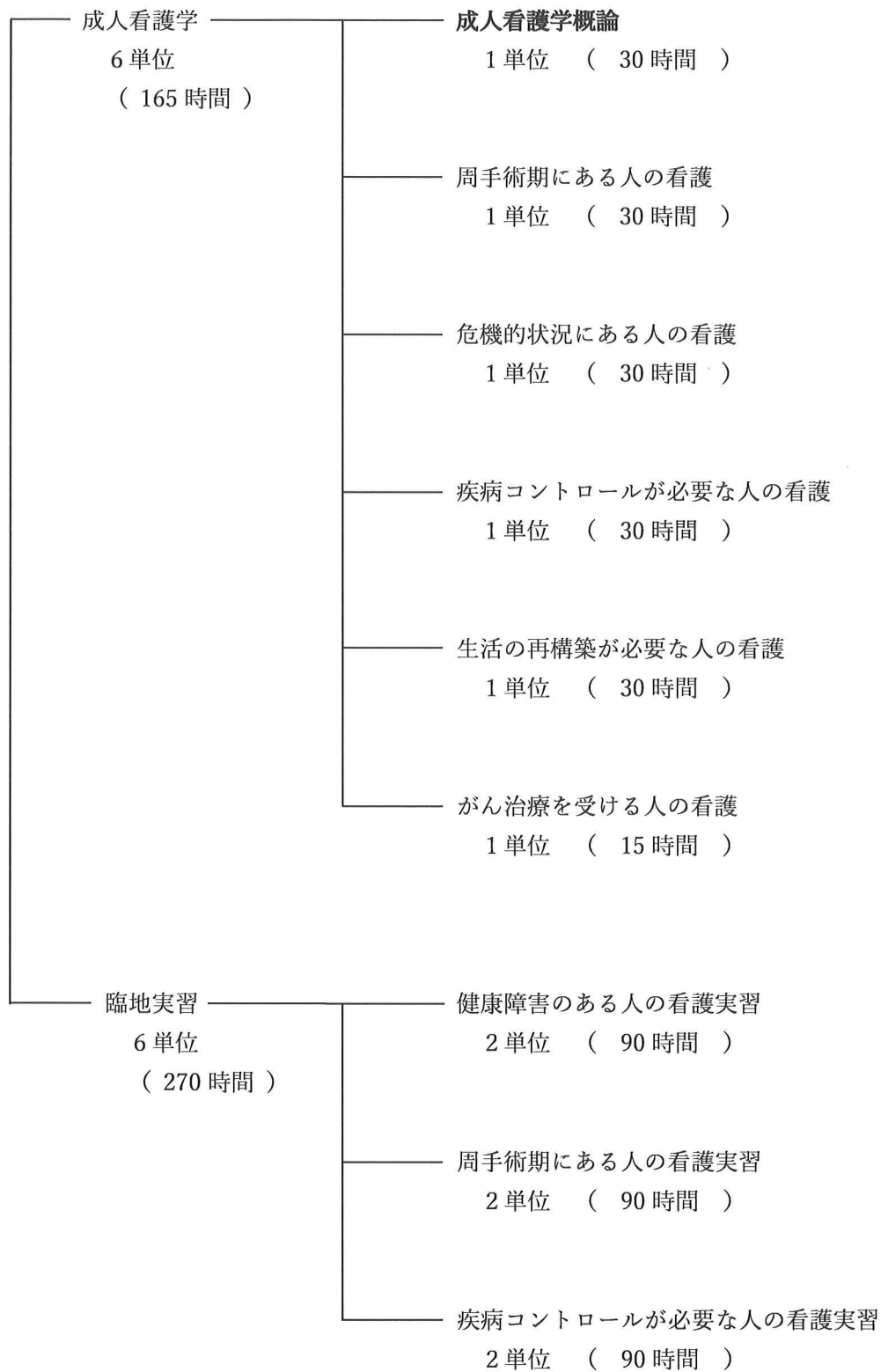
2. 目的

成人の特徴と健康の保持増進の重要性を理解し、さまざまな健康の段階にある人の看護を学ぶ。

3. 目標

- 1) 成人を身体的・精神的・社会的側面から理解する。
- 2) 成人の成長発達・適応・自律をめざし、健康の保持増進のための看護を理解する。
- 3) 成人の健康障害を理解し、健康の段階に応じた看護を理解する。

4. 成人看護学の構成



成人看護学概論

開講時期

1年次
後期

単
位
数

1

時
間
数

30

科目責任者

小幡 慶子

科目設定理由

成人看護学の対象となる人の特徴や健康問題、健康問題に対する看護を理解するとともに、健康段階の特徴や健康段階に応じた看護について理解することをねらいとする。

科目目標

1. 成人の特徴から健康問題を把握し、成人期にある人の看護を理解する。
2. さまざまな健康段階にある成人の看護を理解する。

回数	担当講師	学習形態	学習目標	学習内容	
1	高橋真喜	講義 グループ ワーク 発表	成人期にある人の特徴を身体・精神・社会の側面から理解する	1. 成人期の対象の理解 1) 成人とは 2) 成人各期の特徴	
2					
3					
4			講義	成人各期のそれぞれの健康問題と保健の動向を理解する	2. 成人各期の健康問題と保健の動向 1) 成人各期の保険の動向 (1) 人口と平均寿命 (2) 死因・死亡率(年齢階級別) (3) 生活状況
5					
6			講義	成人の健康問題を学んだうえで、成人の直面する健康問題に対する健康対策を理解する	3. 成人の健康対策 1) 成人を対象とした保健政策 (健康増進法、健康日本21) 2) 生活習慣病 3) 労働に関する健康障害 (労働基準法、労働安全衛生法) 4) 生活ストレスに関連する健康障害 5) セクシャリティ・更年期に関連する健康障害 6) ヘルスプロモーション
7					
8			講義	成人の特性や能力に応じたアプローチを理解する	4. 成人の特性や能力に応じたアプローチ 1) 成人教育学(アンドラゴジー) 2) セルフケア 3) エンパワメント 4) 自己防御と自己効力 5) ストレスコーピング 6) コンプライアンスの促進
9					

回数	担当講師	学習形態	学習目標	学習内容
10	小幡慶子	講義	成人の看護に必要な健康の段階について理解できる	5. 健康の段階 1) 健康の段階とは
11		グループワーク		
12		発表		
13	小幡慶子	講義	危機的状況にある成人の看護について理解する	6. 危機的状況にある人の看護 1) 危機的状況にある人の特徴 2) 危機的状況にある人の援助 3) 援助に用いられる主な理論と考え方 (1) 危機理論 (アギュララとメズイック、フィンク)
14		講義	疾病コントロールが必要な成人の看護について理解する	7. 疾病コントロールが必要な人の看護 1) 疾病コントロールが必要な人の特徴 2) 疾病コントロールが必要な人の援助 3) 援助に用いられる主な理論と考え方 (1) セルフケア (2) 病みの軌跡 (3) 首尾一貫感覚(SOC) (4) 健康信念モデル (5) コントロールの所在
15		講義	生活の再構築が必要な成人の看護を理解する	8. 生活の再構築が必要な人の看護 1) 生活の再構築が必要な人の特徴 2) 生活の再構築が必要な人の援助 3) 疾病・障害・生活機能分類 (1) WHOの障害分類
使用テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 4 臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 1 成人看護学総論 医学書院 国民衛生の動向 厚生統計協会				
評価方法 出席、レポート提出及び内容、試験、グループワーク参加度で評価する。				
担当講師の実務経験 専任看護教員				

老年看護学

1. 考え方

老化は生物、物質に起こる現象であり人間も例外ではない。人間は、老化により日常生活に支障をきたすようになると老いを実感する。さらに、生活の中で人の援助が必要になると社会的存在としての自己のあり方を自覚するようになる。人間は老年期までの長いライフサイクルの過程で、身体的、精神的、社会的機能が変化する。

また、その変化を相互に影響させながら、自己実現に向かい発達し続ける存在である。

老年期の人々は、それまで生きてきた長年の豊富な体験と実績という社会の資産である。常に人間として生きる権利を尊重され、尊厳が認められなければならない。

老年看護学のねらいは、老化に応じた生活の支援そして人生の終末まで、できるかぎり自立して人間らしい尊厳を保持するように援助していくことである。そのためには、生活する高齢者を支える医療制度や福祉制度についても考えられるようにする必要がある。

そしてライフステージにおいて老年期は、必ず死を迎えることになりその死について考える機会をもつ。

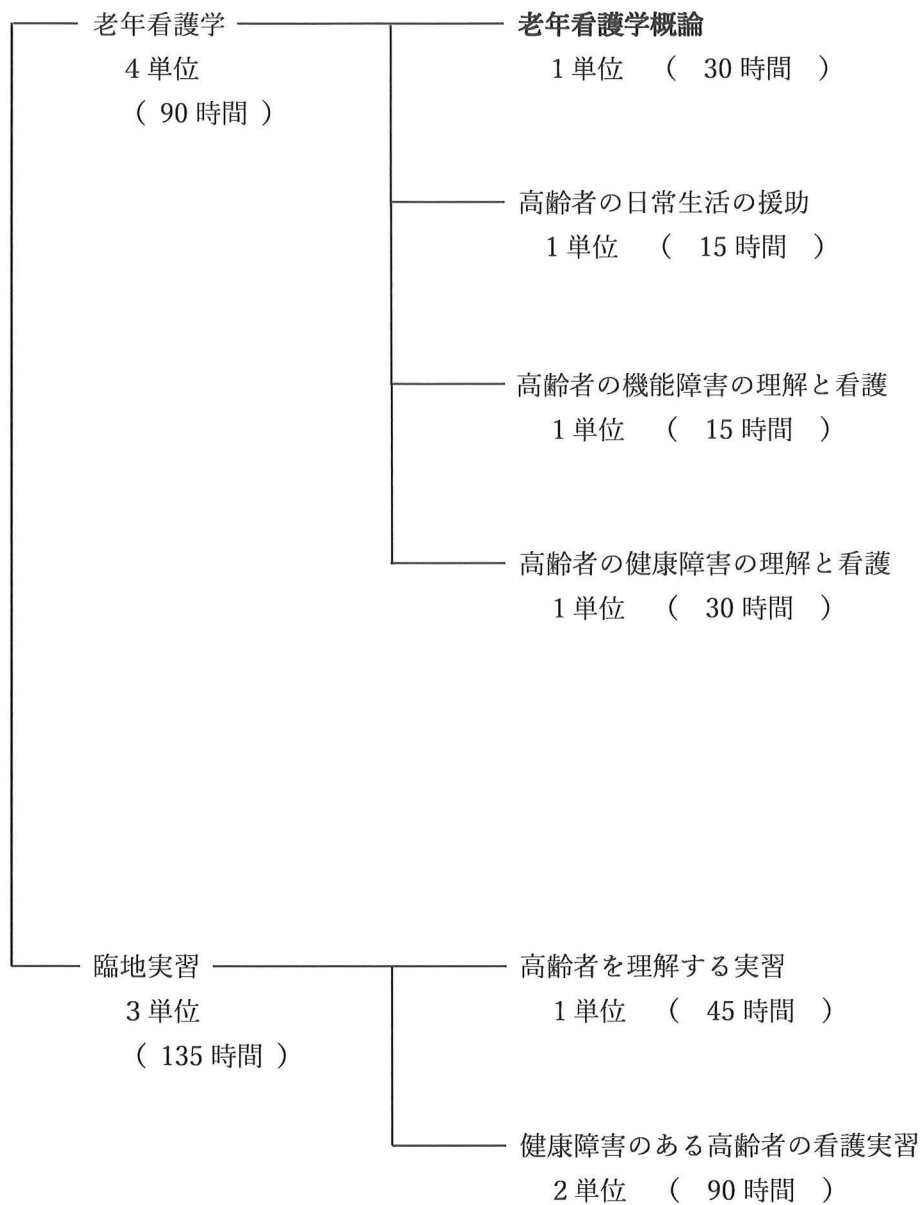
2. 目的

老年期にある対象の特徴を理解し、老化の過程における健康の保持増進、健康障害時の対象およびその家族の看護について学ぶ。

3. 目標

- 1) 老年期にある対象の身体的、精神的、社会的変化を知り、高齢者のライフステージを理解する。
- 2) 高齢社会における高齢者の保健医療福祉の動向と課題を理解する。
- 3) 加齢に伴う高齢者の健康状態の理解を深め、老年看護の機能と役割を理解する。
- 4) 高齢者の健康障害時の諸問題について知り、障害をもつ高齢者と家族に対する看護の方法を習得する。
- 5) 高齢者の「生」や「死」についての理解を深め、生命や人格を尊重する態度を養う。

4. 老年看護学の構成



老年看護学概論

開講時期

1年次後期

単位数

1

時間数

30

科目責任者 永野 栄美

科目設定理由

老年看護学の対象である高齢者について理解するため、加齢に伴う身体的・社会的・心理的变化や高齢者の健康の概念を学習する。老年看護の基本となる考え方や高齢者を取り巻く保健医療福祉制度を理解することで、老年看護学の基礎的な知識が習得できることをねらいとする。

科目目標

生活者として的高齢者を総合的にとらえ、老年看護の役割と課題を理解する。

回数	担当講師	学習形態	学習目標	学習内容
1	永野栄美	講義	老年期を生きる人々を理解する 高齢者の統計学的特徴を説明できる	1. 老年期の理解 1) 老化とは 2) ライフサイクルの中の老年期 発達と成熟 3) 高齢社会の現状 人口学的指標 健康指標
2				
3		講義	高齢者の加齢に伴う変化を理解する	2. 加齢に伴う変化 1) 身体的機能の変化 2) 社会的機能の変化 対人関係 社会生活 3) 心理・精神的機能の変化 セクシャリティ
4				
5				
6				
7		演習 講義	加齢による変化が日常生活に及ぼす影響を理解する コミュニケーションにおける高齢者の特徴を理解する 高齢者におけるアセスメントの特徴を理解する	3. 加齢変化と生活への影響 1) 高齢者の疑似体験 2) 高齢者とのコミュニケーション 3) 高齢者の生活アセスメント
8				
9				
10				
11		講義	老年期を生きる人々の健康を理解する	4. 老年期を生きる人々の特徴 1) 高齢者の多様性 2) 高齢者の健康の特徴 (健康障害の特徴と老年症候群) 3) 高齢者の健康の維持 (アクティビティケア)
12				
13	小鮎淳美	講義	保健・医療・福祉の動向と対策を理解する	6. 高齢者を取り巻く社会 1) 高齢者保健・社会福祉政策 2) 高齢者の社会システム 3) 高齢者の生活の場
14			老年期の目標と特性を理解する	7. 高齢社会における権利擁護
15				8. 老年看護の目標と特性 1) 老年看護の目標 2) 老年看護の特性

使用テキスト

系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院
系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院
国民衛生の動向 厚生労働統計協会

評価方法

レポート提出及び内容、試験で評価する。

担当講師の実務経験

専任看護教員

小児看護学

1. 考え方

小児期は社会的存在としての人間へと絶え間なく成長・発達をとげる時期である。

小児は人間のライフサイクルの初期の段階にあり、絶えず環境との相互作用により成長・発達を続ける。

少子高齢化、核家族化、都市型社会が広まる中で、親の意識、生活環境の変化、保健医療の進歩・発展に伴い、乳幼児死亡は低率国となった。しかし、アレルギーや生活習慣病の増加、青少年の体力の低下、いじめ、虐待、犯罪の低年齢化など、こころと身体の健康にかかわる問題や社会的問題が増加している。周囲からの影響を受けやすい小児の健康生活の意義は大きく、国や社会・地域・学校・家族が持つ役割は重大である。

小児看護には、未来を担う一人ひとりの成長・発達を支援し、健康上の問題については安全・安楽で尊厳の守られた援助が求められる。また健康障害が小児とその家族に及ぼす影響は多大で、家族との協力や家族への支援も看護の役割として大きい。さらに、小児自身が自分の健康を生涯守っていけるような保健活動を育てることも必要となる。

小児看護学では、子どもの基本的人権を守り、小児の特性と小児をとりまく環境を理解し、成長・発達や健康の保持増進を促すとともに、疾病の予防や健康回復にかかわる看護の役割とその方法について学ぶ。

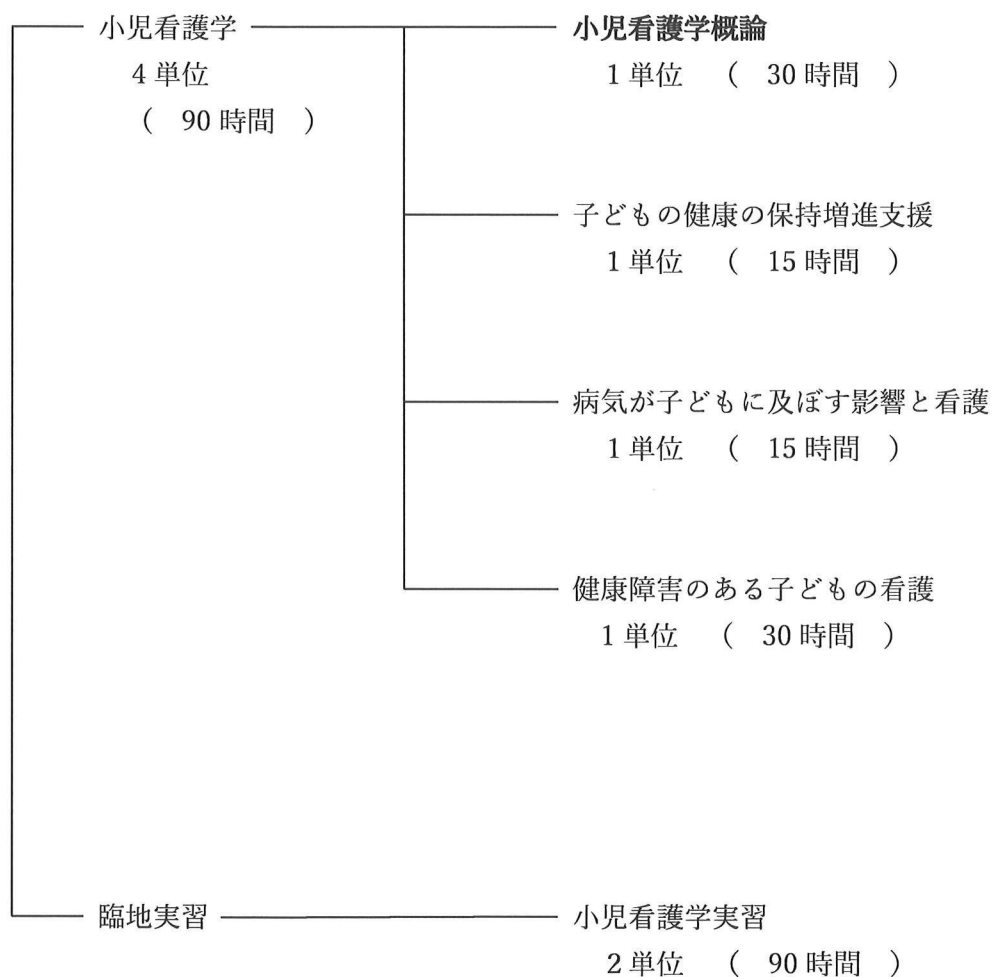
2. 目的

小児の特性と小児をとりまく環境を理解し、健やかな人間関係を促すとともに、健康の保持増進、疾病の予防、健康回復への看護を実践できる基礎的能力を養う。

3. 目標

- 1) 小児の成長・発達の過程について身体的、精神的、社会的側面から統合的に理解する。
- 2) 小児をとりまく環境の意義を理解する。
- 3) 小児と家族の関係を理解し、看護の役割を理解する。
- 4) 健やかな人間形成と健康な生活を送るための保育、看護を理解する。
- 5) あらゆる健康段階の小児の健康問題を理解し、解決できる基礎的知識、技術を習得する。
- 6) 保健医療福祉チームにおける看護の果たす役割を理解する。

4. 小児看護学の構成



小児看護学概論

開講時期

1年次
後期

単位数

1

時間数

30

科目責任者		渡辺 真由		
科目設定理由		子どもの絶えず成長・発達している特徴を知ることや、家族や小児を取り巻く社会問題を知ること、小児看護を学習していく基礎とする。		
科目目標		小児看護の対象を知り、小児看護の目的と役割を学ぶ。		
回数	担当講師	学習形態	学習目標	学習内容
1	棚澤昌子	講義	小児看護の対象を理解する 小児看護の変遷を知る	1. 子どもとは 1) 小児期の区分 2) 子どもの特徴 2. 子ども観の変遷
2		講義	小児に関係する統計を調べ、小児看護の課題を理解する	3. 小児と家族の諸統計 4. 小児看護の課題
3		講義	子どもの人権・権利を知り、小児看護の理念と目的を理解する	5. 子どもの権利と小児看護における倫理
4		講義	子どもを取り巻く環境の意義を理解する 家族の機能や役割を知り、子どもにとっての家族とは何かを理解する	6. 子どもと環境 1) 環境の変化に伴う問題 7. 家族とは 1) 子どもにとっての家庭の役割
5	渡辺真由	講義	成長発達の意味や原則を理解する	8. 成長発達とは 1) 成長発達の原則 2) 成長発達に影響する因子
6		講義	小児看護で用いられる理論を学び、子どもの言動の意味を理解する	9. 小児看護で用いられる理論 ボウルビー ピアジェ エリクソン
7		講義	小児各期の成長発達を理解する	10. 小児各期の成長発達 1) 乳児期 2) 幼児期 3) 学童期 4) 思春期
8				
9				
10				
11	講義	小児各期の成長発達の評価を理解する	11. 発達評価 1) 発達評価の目的と方法 2) 健康診査、育児相談	
12	棚澤昌子	講義	小児におこりやすい事故を理解する	12. 子どもの安全 1) おこりやすい事故の種類 2) 災害時の子どもと家族
13	保健師	講義	子どもの健康の保持増進のための社会施策を理解する	13. 子どもの健康保持増進のための社会施策 1) 母子保健 2) 学校保健 3) 予防接種法 4) 児童虐待防止法
14				
15	棚澤昌子	講義	児童虐待の現状を知り、虐待を受けた子どもの関わりを理解する	14. 児童虐待

使用テキスト

系統看護学講座	専門分野	小児看護学	1	小児看護学概論/小児臨床看護総論	医学書院
系統看護学講座	専門分野	小児看護学	2	小児臨床看護各論	医学書院
国民衛生の動向		厚生統計協会			

参考図書

講義中に提示する

評価方法

出席、レポート提出及び内容、試験で評価する。

担当講師の実務経験

専任看護教員
市町村保健センターの保健師として、母子事業の担当の経験を有する。

母性看護学

1. 考え方

母性看護学は、女性の一生を通して、自己実現と次代の育成に向けて、より高い健康レベルをめざして援助することを目的とした学問体系である。

女性が主体的な自己実現を果たすためには、特に女性のリプロダクティブヘルス／ライツが保障されることが重要である。そこで母性看護学では、人間を母性機能の側面からとらえ、リプロダクティブヘルス／ライツの実現に向け、母性各期に大きく変化する身体的特徴や、その身体的変化に伴う精神的・社会的な特徴を理解する。そして健康の保持増進、疾病予防のためのセルフケアへの援助を中心とした看護の役割を学ぶ。

また、今日は女性および母子をとりまく生活環境は著しく変化し、女性のライフサイクルや家族形態にも影響を及ぼしている。さらに生命倫理の問題など、医療技術の進歩により医療への期待が変化している。このような社会変化やニーズをとらえた看護のあり方を考える。

そして、自らが次代を担う母性看護の対象者として、健康な日常生活を実践する能力や態度を養う。また、周産期における母性および胎児・新生児の看護を通して生命の神秘・生命の尊厳について考えると共に、看護者としての態度を育成する。

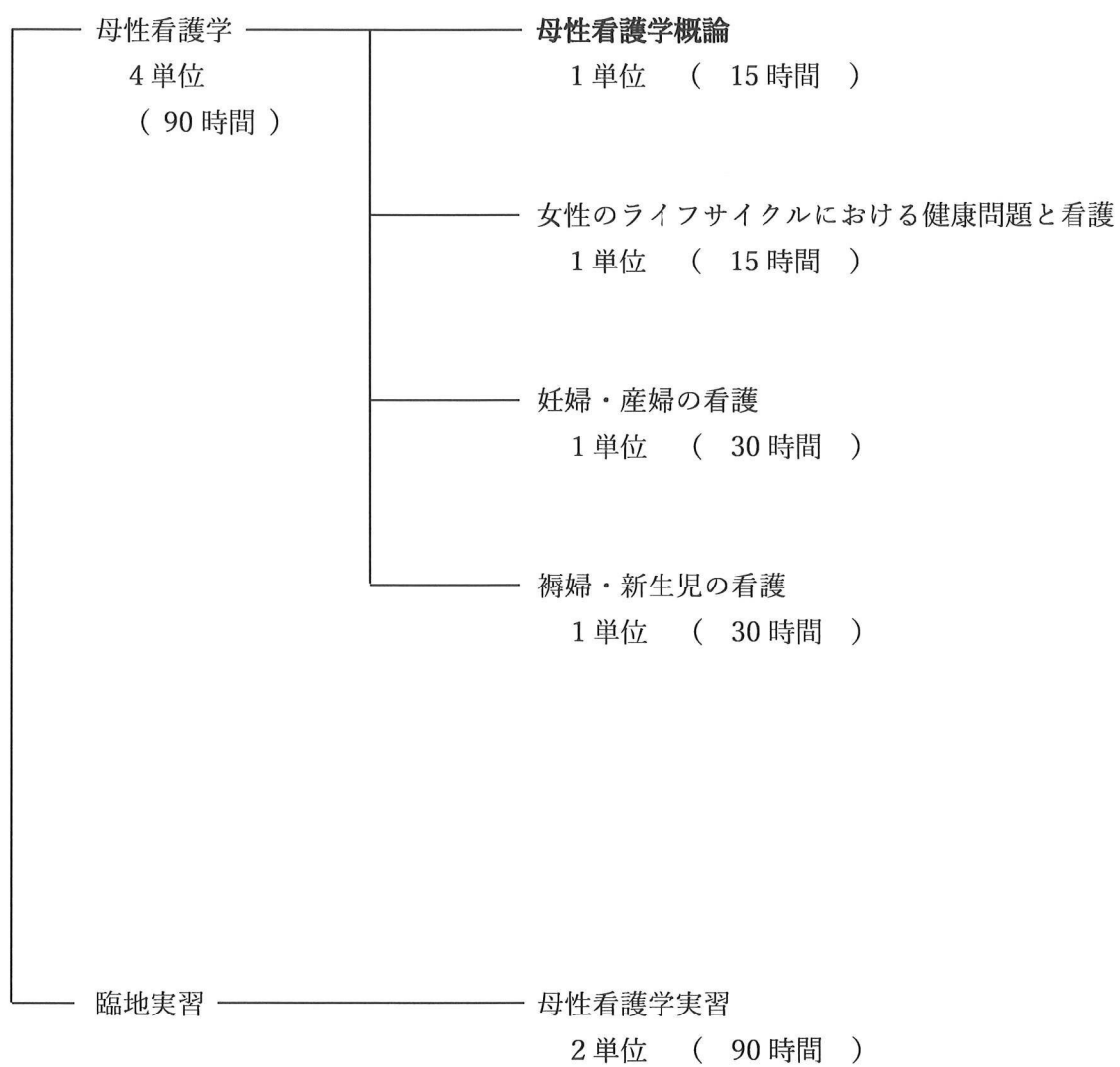
2. 目的

次代の育成に向けて母性各期の特徴を総合的にとらえ、対象がより健康なライフサイクルを送るために適切な援助ができる基礎的能力を養う。

3. 目標

- 1) ヒトのもつ種族保存の働き（生殖）とその意義および母性看護の役割を理解する。
- 2) 母性看護の対象のライフサイクルと母性各期の特徴、および社会の変化による母性の心身に及ぼす影響やニーズを理解する。
- 3) 母性の健康に影響を及ぼす諸因子を知り、リプロダクティブヘルス／ライツを実現するための保健対策と保健活動を理解する。
- 4) 周産期における対象の健康問題を解決するための援助方法を理解する。
- 5) 周産期における対象の看護を通して生命の神秘性や尊さを知り、生命尊重の価値観を養うとともに看護者としての態度を育成する。

4. 母性看護学の構成



母性看護学概論

開講時期

1年次
後期

単位数

1

時間数

15

科目責任者 渡邊 綾子

科目設定理由

母性看護の変遷を理解し、ライフステージ各期における母性看護の特徴や性と生殖に関わる看護について考え、母性看護を学ぶ基礎を学習する。女性のリプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念を中心に、女性の健康を支援するための考え方と看護支援の方法、母性看護に関する関係法規の理解をねらいとする。

科目目標

- 母性の概念および意義を理解し、対象を理解する。
- 母子保健の現状と今後の動向について学び、母性の保健対策の概要と看護の役割について理解する。

回数	担当講師	学習形態	学習目標	学習内容
1	山田文代	講義	母性とは何かを幅広く考え、母性をめぐる様々な定義を理解できる また、母子関係形成の重要性や親や役割過程について理解できる	<ol style="list-style-type: none"> 母性の概念 <ol style="list-style-type: none"> 母性の定義 親になることと母性 母性看護における母性 母子関係形成と母親役割獲得過程 <ol style="list-style-type: none"> 愛着・母子相互作用と母子関係形成 親役割獲得過程（母親・父親） 家族発達
2			<ol style="list-style-type: none"> リプロダクティブヘルス/ライツを踏まえた母性看護の役割について理解できる 	<ol style="list-style-type: none"> リプロダクティブヘルス/ライツ <ol style="list-style-type: none"> リプロダクティブヘルスケア ヘルスプロモーション <ol style="list-style-type: none"> 母性看護のあり方
3			人間の性と生殖について理解できる	<ol style="list-style-type: none"> 人間の性と生殖 <ol style="list-style-type: none"> セクシュアリティ 生殖の形態と機能 性アイデンティティ 性周期
4			女性の生涯を通じた健康の保持・増進について理解できる	<ol style="list-style-type: none"> 女性のライフサイクルと健康 <ol style="list-style-type: none"> 思春期の健康と看護 成熟期の健康と看護 更年期の健康と看護
5	渡邊綾子	講義	母子保健の動向を踏まえ、母性看護に関する観点から、母性看護の現状を理解できる	<ol style="list-style-type: none"> 母性看護の歴史の変遷と現状 <ol style="list-style-type: none"> 母性看護の変遷 母子保健統計からみた動向 母性看護に関係する主な組織と法律 母子保健施策から見た現状 母性看護活動の場と職種 母性看護を取り巻く環境
6			母性看護における生命倫理について理解する	<ol style="list-style-type: none"> 母性看護における倫理 <ol style="list-style-type: none"> 母性の権利と擁護 母性看護における生命倫理諸問題
7				
8				

使用テキスト

系統看護学講座	専門分野	母性看護学	1	母性看護学概論	医学書院
系統看護学講座	専門分野	母性看護学	2	母性看護学各論	医学書院
国民衛生の動向		厚生労働統計協会			

評価方法

出席、レポート提出及び内容、試験で評価する。

担当講師の実務経験

専任看護教員
助産師の経験があり、地域中核病院において副看護部長の経験を有する。また、複数の看護大学、看護師養成所等で当該科目の非常勤講師の経験を有する。